2021年度

滋賀医科大学大学院医学系研究科 修士課程看護学専攻

履 修 案 内

理念及び使命

理 念

滋賀医科大学は、地域の特徴を生かしつつ、特色ある医学・看護学の教育・研究により、信頼される医療人を育成すること、さらに、世界に情報を発信する研究者を養成することにより、人類の健康、医療、福祉の向上と発展に貢献する。

使 命

大学院は、医学及び看護学の領域において、優れた研究者及び高度な知識と技術をも つ専門家を養成することを目的とし、もって、医学及び看護学の進歩と社会福祉の向 上に寄与することを使命とする。

ポリシー

卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

- 1. 看護学やその関連分野における十分な専門的知識及び研究技術を修得している。
- 2. 高い倫理観を有し、研究倫理についての十分な知識を修得している。
- 3. これに加えて、コース毎に下記の能力や姿勢を有することを修了の要件とする。
 - 3-1. 研究コースでは、新たな研究課題を見いだし、その解決のためのエビデンスを創出できる。
 - 3-2. 高度実践コースでは、学生自身の専門領域における看護実践上重要な課題を抽出し、その解決のために最新のエビデンスを理解し、臨床応用実践できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

- 1. 1専攻2コース(研究コース、高度実践コース)を設け、全大学院指導教員による横断的な指導体制とする。
- 2. 共通科目と領域別科目をおく。
 - 2-1. 看護学研究者として必要な基礎的知識と研究技術、研究倫理に関しては 2コースの共通科目として教授する。
 - 2-2. 領域別科目では、各専門領域の専門的知識と研究技術もしくは高度実践技術を教授する。
- 3. 上記に加えて、コースの特徴に合わせた科目を設ける。
 - 3-1. 研究コースでは、様々な研究課題に応じた最先端の研究方法や国内外の知見を教授し、看護学の発展に寄与しうる課題に関する特別研究を課すことで、創造的かつ自立した研究遂行能力を養う。
 - 3-2. 高度実践コースでは、看護の基盤となる看護理論及び看護倫理等に加えて、各専門領域に特化した高度実践の看護技術を教授するとともに、専門分野における看護実践や看護介入に関する課題研究及び実習を課すことで、科学的エビデンスの臨床応用力を養う。

入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)

- 求める学生像
 - 1. 看護学及びその関連分野での研究者や先進的なヒューマンケアサービスを提供する専門家としての資質を有する者
 - 2. 高い倫理観と研究意欲を有する者
- 3. 上記に加えて、高度実践コースでは専攻分野における豊富な実践経験を持つ者
 入学者選抜の基本方針
 - 1. 研究コースでは、①各専門分野の基礎知識と思考能力を問う「専門科目」試験、②科学的研究の遂行に必要な語学力を測る「外国語(英語)」の筆記試験、③研究意欲や倫理観等、研究者としての資質や適性を確認する「面接」を実施する。
 - 2. 高度実践コースでは、①各専門分野の基礎知識と思考能力を問う「専門科目」 試験、②志望する分野での研究課題等についての基礎的知識や研究意欲等を測る ための「口述試験」を課す。

Graduate School of Nursing

Diploma Policy

To complete the Program, students shall meet the following requirements:

- 1. Acquire sufficient expertise and research skills in nursing science and related fields.
- 2. Have high ethical standards and sufficient knowledge about research-related ethics.
- 3. In addition to the above, the following additional abilities and attitudes for each of the courses listed below are required.
 - 3-1. For the Nursing Research Course: the capability to identify new research challenges and to create evidence that leads to their solutions.
 - 3-2. For the Advanced Nursing Practice Course: the ability to identify important challenges in each nursing specialty and comprehend the latest scientific evidence for the application in real clinical settings.

Curriculum Policy

- 1. By establishing two Courses at our Graduate School (The Nursing Research Course and The Advanced Nursing Practice Course), we provide our students with interdisciplinary education administered by our entire teaching staff.
- 2. The Graduate School stipulates several common and specialized subjects for both Courses.
 - 2-1. Common subjects cover basic knowledge, research skills, and research ethics that are generally necessary for nursing scientists.
 - 2-2. Specialized subjects cover the expertise necessary for each nursing specialty as well as research skills or advanced nursing skills.
- 3. In addition to the above, the two Courses each address specific subjects appropriate to their goals, as indicated below.
 - 3-1. The Nursing Research Course nurtures students' ability to conduct research in an independent and creative manner by 1) teaching them the most advanced research methodologies for different research topics and providing them with the latest knowledge; and 2) providing students with special research tasks, related to existing challenges, that will lead to advances in nursing science.
 - 3-2. The Advanced Nursing Practice Course enhances students' ability to apply scientific evidence in real clinical settings by 1) educating them not only about basic theories and ethics related to nursing but also about speciality-specific

advanced nursing skills; and 2) providing them with research tasks and training related to speciality-related nursing practice and nursing intervention.

Admission Policy

Desired students:

- 1. Those who have the basic grounding required to become researchers in nursing science or related fields, or experts who provide advanced human care services.
- 2. Those who have high ethical standards and enthusiasm for research.
- 3. For the Advanced Nursing Practice Course, students with the above qualifications who also have rich practical experience in their specialized fields.

Student Selection:

- 1. The Nursing Research Course conducts (1) a Special Subject exam that tests students' fundamental knowledge and thinking abilities in their specialized areas; (2) a Foreign Language (English) writing exam that tests the language skills that are necessary for students to conduct scientific research; and (3) an interview that confirms students' passion for research, their ethical standards, and their qualifications and competency for becoming researchers.
- 2. Candidates for the Advanced Nursing Practice Course must take (1) a Special Subject exam that tests students' fundamental knowledge and thinking abilities in their specialized areas; and (2) an Oral Exam that evaluates students' fundamental knowledge and enthusiasm regarding research in their desired fields.

看護学専攻の修士課程の教育目標

本学大学院修士課程看護学専攻は、21世紀社会の健康問題に関する多様な要請に適切に応えるために、滋賀県で最初に設置された看護系高等教育機関である。

本学がこれまでに蓄積してきた研究や教育のノウハウ、さらに看護実践の成果や医学部看護 学科ならびに附属病院と関連施設の教育資源を活用して、高度で先進的看護サービスを支える 確かな専門的知識と看護技術をもつ優れた看護ケアの専門家、教育者及び研究者を育成し、実 践と研究を通して看護学の発展に寄与することを目標としている。

上記の目標を基盤に、人間の尊厳や権利を尊重しながら、その存在を自然・社会・生活環境 との関係において捉え、個人あるいは集団に有用かつ効果的な看護の理論と方法論を修得する ことで、国内はもとより海外においても活躍しうる人材の育成を目的とする。

また修士課程は、看護学の基礎を修めた者がさらに広い視野に立って専門分野の学識を深め、 科学的思考能力や問題解決能力、基礎的な研究能力及び看護実践、看護教育、看護管理、看護 行政等における指導能力を養うことを目的としている。

専門科目及び共通科目における講義、演習、臨地実習ならびに特別研究を通して、以下の能力を養う。

- 1. 看護における知識や技術及び倫理を、科学的な根拠をもって各専門領域の看護実践に応用することができる。
- 2. ヘルスケアシステムの中で、看護実践及び看護管理に関する高度な専門知識と技術を発揮することができる。
- 3. 保健・医療・福祉の専門職との協働において、看護専門職としての意志決定と主体的行動が執れるとともに、様々な状況においてリーダーシップを発揮することができる。
- 4. 看護教育の理念と方法に関する高度な知識と技術を修得し、看護の専門性に誇りをもちながら優れた教育活動を実施することができる。
- 5. 看護上の問題を見出し、主体的・創造的に研究活動を推進することができる。
- 6. 新たな看護技術を開発し、また看護倫理を検証することにより、臨床へ応用することができる。
- 7. 複雑で多様な人々の健康問題に柔軟に対応し、学術的及び国際的に活躍することができる。

カリキュラムの特徴

1. 2つのコース

研究コースと高度実践コースの2つのコースを設けています。研究コースは研究者の養成を目的とした3つの研究領域があり、高度実践コースは高度で先進的看護ケアサービスを支える確かな専門知識と看護技術をもつ、優れた看護ケアの専門家の養成を目的とした2つの研究領域があります。

≪研究コースの各専攻領域≫

- 【基礎看護学研究領域】基礎看護学研究領域は、看護が対象とする人間を包括的にとらえ研究することによって、あらゆる看護実践に共通する基礎理論を見出し、看護の科学性を追求することを目指した領域です。「基礎看護学Ⅰ」は、看護科学を基盤においた看護教育、看護技術を研究課題としています。「基礎看護学Ⅱ」は、人を形態と機能の側面から科学的に探求し、看護実践に応用できる新しい知見の構築を目指しています。「基礎看護学Ⅲ」は、生きることの基盤である食と栄養に関わる看護の専門性を探求する看護栄養学について研究します。
- 【臨 床 看 護 学 研 究 領 域】臨床看護学研究領域は、高度な看護実践の場で用いられる看護介 入を体系的に研究する領域です。成人看護学、老年看護学、小児看護学、ウイメンズヘル ス看護学、精神看護学等の各分野でのエビデンス構築を目指しています。
- 【公衆衛生看護学研究領域】公衆衛生看護学研究領域は、すべての人々にとっての健康、安心や安全を整えること、健康格差の縮小、超高齢社会における地域包括ケア、健康的なコミュニティづくりなど、保健医療サービスのあり方や質の向上に寄与する知見や実践を探求する領域です。公衆衛生看護学、在宅看護学の分野でのエビデンス構築を目指しています。

≪高度実践コースの各専攻領域≫

- 【看護管理領域】(看護管理実践部門)看護管理領域は、保健医療福祉を取り巻く環境の変化に対応できる幅広い知識をもち、看護管理能力やリーダーシップ能力、看護職の指導的能力及び倫理観を備えた看護管理実践者を育成し、質の高い組織的看護サービスの発展に寄与することを目指す領域です。
- 【特定行為領域】(特定行為実践部門および周麻酔期看護実践部門)特定行為領域は、看護の様々な実践領域での特定行為を担い得る卓越した知識と技術を有する高度実践看護師を育成し、その役割モデルを示すことで、実践領域における看護の専門性向上と臨床看護の発展に寄与することを目指す領域です。

2. 自由に選択できる多様な授業科目

各自の研究テーマに合わせて、全領域の共通分野の授業科目と各研究領域の講義科目より、 研究領域を越えて自由に選択することができます。

3. きめ細やかな研究指導

修士論文の作成に関連して、専攻の領域を越えたきめ細やかな指導が受けられるように配 慮し、中間発表の場を設けています。

4. 教育方法の特例

大学院設置基準第14条「教育方法の特例」*を適用し、有職者が離職することなく修学し、 教育・研究指導を受けることが可能になるよう、昼間だけでなく夜間その他特定の時間又は 時期に講義・研究指導を行うように配慮しています。

5. 長期履修制度の導入

職業を有している等の事情により、修業年限(2年)を超えて一定の期間(3年)にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを願い出たときは、審査によりこれを認めることができる制度を設けおり、入学時又は第1学年在学時の定められた時期に願い出ることができます

*大学院設置基準第14条

「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時期又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」

令和3年度 大学院医学系研究科修士課程 学年暦

行 事	日 程
前期(4月1日(木)	~ 9月30日(木))
学年開始	4月 1日 (木)
入学宣誓式・新入生履修指導(春季)	4月 2日(金)
前期授業期間	4月 8日(木)~ 7月30日(金)
補講期間	8月 2日 (月) ~ 8月 6日 (金)
夏季休業	8月 7日(土)~ 9月30日(木)
学位論文研究発表会(第1回)・中間発表会・ デザイン発表会	8月30日(火)~ 9月 3日(金)
学位授与式(秋季)	10月 1日(金)
後期(10月 1日(金))~ 3月31日 (木))
入学宣誓式・新入生履修指導(秋季)	10月 1日(金)
後期授業期間(前半)	10月 4日(月) ~ 12月17日(金)
冬季休業	12月18日(土) ~ 1月 3日(月)
後期授業期間(後半)	1月 4日(火) ~ 2月14日(月)
学位論文研究発表会(第2回)・中間発表会・ デザイン発表会	1月31日(月) ~ 2月 4日(金)
春季休業	2月15日(火) ~ 3月31日(木)
学位授与式(春季)	3月10日(木)
学年終了	3月31日 (木)

【備考】

- 1) 定期健康診断の日程は、別途通知する。
- 2) 10月29日(金)は、学園祭(若鮎祭)の開催にともない休講とする。
- 3) その他、学年暦に変更があった場合は、その都度通知する。

令和3年度 授業科目及び担当教員

				授	研究:	コース		高度実活	践コース				
	I	研究領域/部門	授業科目	業							· 単 位	時間	授業担当教員
	1	听先哄哟/ 副门	女 未 符 日	形態	配当 年次	必修・ 選択		必修・		必修・	数数	数	
							配当年次	選択	配当年次	選択			
			看護学研究方法論 	講義	1前	必修	1前	必修	1~2前	必修	2	30	立岡
			看護学研究方法論 	講義	1後 	選択必修	1~2	選択	1~2後	- 選択必修	2	30	河村
			看護学研究方法論Ⅲ	講義	1後 ———		1~2	選択	1~2後		2	30	宮松
			看護学研究方法論Ⅳ 	講義	1後	必修	1後	選択	1~2後	選択	2	30	荻田
			看護学研究方法論 V	演習	1通年	<u>必修</u>	1 通年 ————	選択	1通年	選択	2	60	各指導教員
			外国語文献レビュー	講義	1前	選択	1前	選択	1 前	選択	2	30	加藤
			看護理論	講義	1前	選択	1前	必修	1~2前	選択	2	30	伊藤
		全領域	看護倫理 	講義	1前	選択 	1~2前	必修	1~2前	選択 	2	30	()
			看護管理学 	講義	1後 ————	選択	1後 	必修	1~2後	選択 	2	30	
			コンサルテーション論	講義	1前	選択	1前	必修	1~2前	選択 	2	30	河村
共			看護教育学	講義	1前 	選択	1前 	選択	1~2前	選択	2	30	桑田
通科			看護政策論 	講義	1後 	選択	1後	選択	1~2後		2	30	()
目			臨床解剖生理学 	講義	1前	選択	1前	選択	1~2前	選択	2	30	相見
			臨床薬理学 	講義	1前	選択	1前	選択	1前	選択	2	30	佐々木
			二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二	講義	1前	選択	1前	選択	1前	選択	2	30	遠藤
			看護学課題実習	実習	1 通年	選択	-	-	-	-	2	90	各指導教員
			疾病予防学 	講義	1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	2	30	喜多
			フィジカルアセスメント	講義	1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	2	30	遠藤
			疾病・臨床病態概論 	講義	1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	2	30	遠藤
		特定行為	臨床推論 I	講義	1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	2	30	遠藤
			臨床推論	講義	1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	2	30	北川
			特定行為実践論	講義	1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	2	30	宮松
			特定行為実践演習	演習	1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	1	30	宮松
			診療看護実践論	講義	1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	2	30	<u></u> 辻村
		+ ** * = * *	基礎看護学丨特論	講義	1前	選択	_	_	_	_	2	30	
		基礎看護学丨	基礎看護学 演習 A	演習	1後	選択			_	_	1	30	
	基		基礎看護学丨演習B	演習	2前	選択	_	_	_	_	1	30	
	礎	+ ** * = * * * 11	基礎看護学 特論	講義	1前	選択	_	_	_	_	2	30	相見
	看 護	基礎看護学Ⅱ	基礎看護学 II 演習 A	演習	1後	選択		_	_	_	1	30	相見
	学		基礎看護学Ⅱ演習B	演習	2前	選択	_	_	_	_	1	30	相見
		甘林毛芙兴 山	基礎看護学Ⅲ特論	講義	1前	選択		_	_	_	2	30	佐々木
		基礎看護学Ⅲ	基礎看護学Ⅲ演習 A 	演習	1後 2前	選択					1	30	佐々木
			基礎看護学Ⅲ演習B	演習講義	2 則 ———— 1 前	選択		_		_	2	30	佐々木
		成人看護学 l	成人看護学 特論 	i 講 我 演習	1 則 1 1後	選択 選択					1	30	遠藤
		水 八有碳子 I	成人看護学 I 演習 A 成人看護学 I 演習 B	□ 凍留 □ 演習 ■ 演習	1 俊 ———— 2 前	選択 選択		_			1	30	
研			成人有護学 I 演習 B 成人看護学 II 特論) 神智 講義	∠削 1前	選択 選択		_		_	2	30	
究コ		成人看護学Ⅱ			1 削 1 1後	選択 選択					1	30	宮松
1		パハ 名 吱丁 II		澳音 演習		選択 選択			_		1	30	宮松
ス			成八有護子 II	講義	1前	選択	_	_			2	30	荻田
		老年看護学	七千有慶子付冊 		1 _[1] 1後	選択 選択	<u> </u>				1	30	荻田
	臨	5 十有 咬丁	七千有慶子與 B A	 演習	 2前	選択 選択	_	_	_		1	30	荻田
	床 看		小児看護学特論	講義	1前	選択	_	_	_	_	2	30	桑田
	護学	小児看護学		演習	1後	選択	<u> </u>	_	_	_	1	30	 桑田
	۲-	- 20 HW 1		次日 	2前	選択	<u> </u>	_	_	<u> </u>	1	30	 桑田
			ウイメンス゛ヘルス学特論	講義	1前	選択	_	_	_	_	2	30	立岡
		ウイメンズヘルス看護学	プイブンペー **パルテー15 mm		1後	選択					1	30	立岡 立岡
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		次日 		選択	_	_	_	_	1	30	喜多
				講義	1前	選択	_	_	_	_	2	30	河村
		精神看護学			1後	選択	_	_	_	_	1	30	河村
		⊟#X]		 	2前	選択	<u> </u>	_	_	_	1	30	河村
			1011 省段 1 次日口	/六日	ר נו	XSJ/\	<u> </u>		<u> </u>			1 30	V. 1.1.1

令和3年度 授業科目及び担当教員

				授	研究:	コース		高度実	践コース				
	1	研究領域/部門	授業科目	業		21 lb	看護管	理領域	特定行		· 単 位	時 間	授業担当教員
		ALYON AN HELL	32 37 11 11	形態	配当 年次	必修・ 選択	配当年次	必修・ 選択	配当年次	必修・ 選択	数 数	数	
			地域看護学丨特論	講義	1前	選択	_	_	_	_	2	30	伊藤
研		地域看護学丨	地域看護学 I 演習 A	演習	1後	選択	-	_	_	_	1	30	輿水・伊藤
究	看 衆		地域看護学 I 演習 B	演習	2 前	選択	-		_		1	30	伊藤
□	護 衛 学		地域看護学Ⅱ特論	講義	1前	選択	-	_	_	_	2	30	辻村
ス	生	地域看護学	地域看護学 II 演習 A	演習	1後	選択	_	_	_	_	1	30	辻村
			地域看護学 II 演習 B	演習	2前	選択	_	_	_	_	1	30	辻村
	看=#		看護管理特論	講義	_	_	1 前	必修	-	_	2	30	()
	護管	看護管理実践	看護管理演習	演習	_	_	1後	必修	_	_	1	30	()
	理領	有碳官垤夫战	看護管理演習	演習	_	_	2 前	必修	_	_	1	30	()
	域		看護実践実習(看護管理実践)	実習	_	_	1~2	必修			6	270	()
			呼吸管理学実習丨	実習	-	_	_	_	1~2	選択	1	30	北川
			呼吸管理学実習Ⅱ	実習	_	_	_	_	1~2	選択	4	120	北川
			呼吸管理学実習Ⅲ	実習	—	_	_	_	1~2	選択	1	30	北川
			循環管理学実習	実習	_	_	_	_	1~2	選択	3	90	北川
			循環管理学実習	実習	_	_	_	_	1~2	選択	2	60	北川
			循環管理学実習Ⅲ	実習	_	_	_	_	1~2	選択	2	60	北川
			循環管理学実習IV	実習	_	_		_	1~2	選択	4	120	北川
			外科管理学実習	実習	_	_	_	_	1~2	選択	2	60	北川
			外科管理学実習	実習	_	_	_	_	1~2	選択	2	60	遠藤
			外科管理学実習Ⅲ	実習	_	_	_	_	1~2	選択	1	30	遠藤
			外科管理学実習IV	実習	_				1~2	選択	2	60	はい
		専門科目	栄養管理学実習	実習	_	_	_	_	1~2	選択	2	60	佐々木
高		等门行日	栄養管理学実習Ⅱ	実習	_	_	_	_	1~2	選択	3	90	佐々木
度実			栄養管理学実習Ⅲ	実習	_	_	_	_	1~2	選択	1	30	佐々木
践	特		栄養管理学実習IV	実習	_				1~2	選択	2	60	佐々木
□ -	定		栄養管理学実習V	実習	_	_	_	_	1~2	選択	3	90	佐々木
ス	行 為		創傷管理学実習 I	実習	_	_	_	_	1~2	選択	2	60	遠藤
	領 l#		創傷管理学実習Ⅱ	実習	_	_	_	_	1~2	選択	1	30	遠藤
	域		感染管理学実習	実習	_	_	_	_	1~2	選択	3	90	はい
			精神疾患管理学実習	実習	_	_	_	_	1~2	選択	2	60	코닌기
			疼痛管理学実習	実習	_	_	_		1~2	選択	2	60	北川
			スキルズラボ演習Ⅰ	演習	_	_	_	_	1~2	選択	2	60	北川、遠藤、佐々木
			スキルズラボ演習Ⅱ	演習			_		1~2	選択	2	60	北川、遠藤、佐々木
			看護実践演習(特定行為実践)	演習	_	_	_	_	1~2	必修	6	180	北川、各指導教員
			特定行為看護特論	講義	-	-	_	_	1~2	必修	2	30	遠藤、各指導教員
		特定行為実践	特定行為看護演習I	演習	-	-	_	_	1~2	必修	1	30	遠藤、各指導教員
			特定行為看護演習	演習	-	-	_		1~2	必修	1	30	遠藤、各指導教員
			周麻酔期看護特論	講義	-	-	_	_	1~2	必修	2	30	北川
			周麻酔期看護演習 I	演習	_	-	_		1~2	必修	1	30	北川
		周麻酔期看護実践	周麻酔期看護演習 II	演習	-	-	_	_	1~2	必修	1	30	北川
		· 问M	周麻酔期看護実践 I	実習	_	_	_	_	1~2	必修	3	135	北川
			周麻酔期看護実践 II	実習	-	-	_	_	1~2	選択	1	45	北川
			周麻酔期看護実践Ⅲ	実習	_	_			1~2	選択	1	45	北川
											単	時	
										必修・	半	H寸	

コース	授業科目	授業形態	配当年次	必修・ 選択	単 位 数	時 間 数	授業担当教員
研究コース	看護学特別研究	特別研究	1年後・ 2年通年	必修	10	450	各指導教員
高度実践	看護実践課題研究(看護管理実践)	課題研究	1~2	必修	4	180	各指導教員
コース	ッ (特定行為実践)	課題研究	1~2	必修	4	180	各指導教員

授業	科目名	看護学研究方法論	担 担当			年次	1 年次	時間数	30			
授第	 能	講義	担当教員	立岡	弓子	前· 後期	前期	単位数	2			
授業目的	学習する られる。 めてい 自らの	侖文課題作成の準備段 ることで、看護実践か ように学習する。看護! く。 の研究課題に関係する。 要素も取り入れる。	う導き出さ 学に資する	れたリ研究で	サーチクエ: あることの(スチョン 立置づけ	に気づき、研 をディスカッ	究の意義 ションに	を考え より深			
到達目標	5. 研究方法の項目が理解できる 6. 看護研究における倫理の原則、倫理的配慮について理解できる											
回数				授業	内 容							
	ガイダンス 看護研究とは リサーチクエスチョンとは 研究テーマと文献検索方法 看護研究の方法論 研究デザインと概念枠組み 研究計画書の書き方 看護研究と倫理											
<u>=</u> 1	· 価方法	1) プレゼンテー・2) ワークショップ		0%								
	書・参考書 文献等	D.F.ポーリット/C 黒田裕子著;黒田裕							2010.			
1)講義・演習 授業形式 2)学生による課題発表												
オフィ	7/2777											
	開講予定は履修生と相談して決定する。 学生への ッセージ											

授業	科目名	看護学研究	究方法論	担当	\	<i></i>	年次	1 年次	時間数	30
授業	美形態	講	義	担当教員	沙川村	奈美子	前・後期	後期	単位数	2
授業目的	看護研 1. 2. 3. 4. 5. 7	内容について 「究における質 護研究におけ まざまな質的 「究目的と適切 「アデザインと データ収集と分 「一タの記述	類的研究と目的 対のでででする 対のでででする。 対のでは、できます。 対象では、できます。 対象では、できます。 対象では、できます。 対象では、できます。 対象では、できます。 対象では、できます。 対象では、できます。 は、できますが、ままます。 は、できますが、ままままます。 は、できまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	的と目打 の目的 ーチ 沢		実施にむけた	た能力を	養う。		
到達目標		「究における質 ・要とされる知				義、方法につ	ついて理	解し、質的で	研究の実施	施に向
回数					授業	内 容				
	第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 1 0 0 0 0 0 0 0 0	計画】 【(質的研究と 】(質的研究と 】(質的研究と 】(質的研究と 】(質的研究と 】(質的研究と 】(質的研究と 】((質性の可能をはない。 】((さい)()(はい)()()(はい)()()()()()()()()()()()()	はははははははははははははなけるははなけるはなりはなりはなりはなりはなりはなりはなりはなりはなりはなりはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはない<li< th=""><th>研ら利げ研ープ収造テーのプープープープーア実究テ用イ究ルリ集化ィカ記ローローロープ践ののこと、ブドンとイブス述ーニーニーニートリー</th><th>倫ス理 ロヘグ分ン グ チ チ チ チ ーい理へ的 スアービ ー 分 分 分 分 とつとって ガ 析 析 析 分かの かり かり</th><th>場 マ 一 観ビグコ現解観会) とュウド学的分子 とコウド学的分子 スルデ、ア分プラ</th><th>ノデッカプ折ロデ 法グードテロ ーィ混にラタセゴー チス合つし</th><th>7ィーリー イーリー 一一一 イーー イーー イーー イン イン イーー イン イン イン イン イン イン イン イン イン イン イン イン イン</th><th>プロセス</th><th>٤</th></li<>	研ら利げ研ープ収造テーのプープープープーア実究テ用イ究ルリ集化ィカ記ローローロープ践ののこと、ブドンとイブス述ーニーニーニートリー	倫ス理 ロヘグ分ン グ チ チ チ チ ーい理へ的 スアービ ー 分 分 分 分 とつとって ガ 析 析 析 分かの かり	場 マ 一 観ビグコ現解観会) とュウド学的分子 とコウド学的分子 スルデ、ア分プラ	ノデッカプ折ロデ 法グードテロ ーィ混にラタセゴー チス合つし	7ィーリー イーリー 一一一 イーー イーー イーー イン イン イーー イン イン イン イン イン イン イン イン イン イン イン イン イン	プロセス	٤
評価	方法		度、課題への耳				より総合	合的に評価しま	ます。	
	書・ 文献等		理と方法(近崩 ック(2011).新開				春秋社			
授業	形式	演習やディス 程調整を行い	カッションへの 、集中での開記				の受講者	 皆も多いこと <i>た</i>	<u></u> が予測され	、日
	7ィス ワー									
-	·/- -への	積極的に参加	アノだナい							
, ,	セージ	1月122日111~9/川	0 (\ /. 0 ()							

								1				
授業	科目名	看護学研究方法論Ⅲ	担当			年次	1年次	時間数	30			
授業	美形態	講義	担当教員	宮松	直美	前· 後期	後期	単位数	2			
授業目的		基本的な考え方と研究方法お。 こ必要な知識・技術を身につけ		要な統計手法	まについて ^ら	学び、エ	ビデンス構築の	りための看	護学研			
到達目標	2.各研究 3.研究認)理論と方法、視点を理解する Rデザインの特徴を理解する R題に適した統計学的手法を選)解釈の際に留意すべき点を理	定でき									
回数	授 業 内 容											
	【授業計画】 第1回 オリエンテーション・疫学とは何か 第2回 疾病頻度の測定 第3回 スクリーニング検査の評価、疾患の自然経過 第4回 ランダム化比較試験 第5回 コホート研究 第6回 ケースコントロール研究 第7回 リスクの推定 第8回 予防効果の推定 第9回 コホート研究とケースコントロール研究の比較 第10回 因果推論 第11回 遺伝要因と環境要因の役割 第12回 保健医療サービスの評価に対する疫学の応用 第13回 スクリーニングプログラムの評価に対する疫学の応用 第14回 解析演習@MMC 第15回 解析演習@MMC											
評価	方法	プレゼンテーション(50%)、記	対論への	の参加態度(5	0%)により	総合的に	評価する。					
	書・	疫学 医学的研究と実践のサショナル)(原著: Epidemic				、(メディ	カル・サイエン	ン ス・イン	ターナ			
授業	形式	担当課題について、大学院生	による	プレゼンテ・	ーションを	もとに質	疑および討論 な	を行う。				
	オフィスアワー:平日 12:00-13:00 (看護学科棟 509 もしくは 516) **講座で対応 アワー											
	担当箇所についてはテキスト以外の図書や資料に基づいた十分な準備をしてください。 *生への *ソセージ											

			1		1	ı	1	1	
授業	科目名	看護学研究方法論Ⅳ	担当	共田光佳フ	年次	1年次	時間数	30	
授美	Ě形態	講義	担当教員	荻田美穂子 	前· 後期	後期	単位数	2	
授業目的		- 系統的レビューに必要とされる ンキング能力を磨くことを目的			・評価	方法)の習行	导と、クリ	ティカ	
到達目標	理解で シス文 論 量 が で	マティックレビューの概要とる リティークの意義とその方法だ 究方法論および質的研究方法	その方法 が理解で 論で学り	よが理解できる。 できる。 んだ既習の知識を活用し、	論文を	クリティーク	クの手法で		
回数									
	授業計画表に沿って進める。 第1回 文献レビューの目的と論文クリティークの意義 第2回 システマティックレビューとは 第3回 系統的な文献検索から文献管理演習 第4回 系統的な文献検索から文献管理演習 第5回 系統的な文献検索から文献管理演習 第6回 論文クリティークの方法 第7回 論文クリティークの方法 第8回 論文クリティークの演習 第9回 論文クリティークの演習 第10回 量的研究の文献レビューと論文クリティークの実際 第11回 量的研究の文献レビューと論文クリティークの実際 第12回 量的研究の文献レビューと論文クリティークの実際 第13回 質的研究の文献レビューと論文クリティークの実際 第13回 質的研究の文献レビューと論文クリティークの実際 第14回 質的研究の文献レビューと論文クリティークの実際								
評価	访法	プレゼンテーション(50%)、 学生の主体的参加が重視され		の参加状況(50%)により評	平価する) ₀			
	書・	よくわかる看護研究論文のク エビデンスに基づく看護実践 版会							
授業	託式	講義、演習、学生によるプレ 各自割り当てられた本もしく テーションを行う。 担当箇所は初回講義日にアナ	は文献	を講読し、内容の要約やク	•	ーク内容につ	ついてプレ	ゼン	
	'ィス ワー								
3	Eへの セージ	論文を適切に抽出し、評価で 過程の両方で必須です。研究 さんの主体的な参加をお願い きればと考えています。	2コース	だけでなく、高度専門職コ	ースの	方にもオスス	スメします	。学生	

		1		1							
授業	科目名	看護学研究	究方法論 V	担当		年次	1年次	時間数	60		
授第	 能	演	習	担当教員	各指導教員	前· 後期	通年	単位数	2		
授業目的				り、研究	兄課題及び検討方法 <i>を決</i>	た練する。					
到達目標	2. 研3	らの研究課題を 究課題に適した 究課題と方法に 計画を適切にフ	研究方法を選 適した分析方	去を選択	マする。						
回数					授 業 内 容						
	【授業計画】 1 オリエンテーション 2 ヒューマン・ケアリング理論① 3 ヒューマン・ケアリング理論② 4 適応看護理論② 5 適応看護理論② 6 発達段階理論① 7 発達段階理論② 8 自己決定理論 9 行動変容理論 10 家族システム論 11 サクセスフル・エイジング・モデル 12 セルフケア理論① 13 セルフケア理論② 14 アンダーセン・モデル 15 コミュニティ・エンパワメント										
評価	方法	により総合的に	に評価する。 レスミーティン	グで報	(20%) とプレゼンテー 告された学会参加及び						
教科	書・	特になし(指導			ください)						
参考	書文献										
4	等										
授業	文献紹介、研究課題について討論、学会参加・発表の報告、研究デザイン発表授業形式										
	'ィス ワー										
	<u>E</u> への セージ										

授業	科目名	外国語文献レビュー	担当教員	加藤 穣	年次前・	1 年次	時間数	30			
授業	 半形態	講義	教員	<i>川 </i>	後期	前期	単位数	2			
授業目的		文の作成に向けて、研究テー、 文献を追加できるようにトレ-			して検討	討するための基	礎知識を習	習得し、			
到達目標	修士論	文に関する外国語文献を検索し 文に必要に応じて文献を追加て 独立して文献を検索・検討し、	できる。			研究に活用する	ことができ	きる。			
回数				授業内容							
	期的に	文に関する参考文献・引用文献 は自身の研究内容を英語で発表 国の講義までに自身の研究に関	長できる	るための基礎を養成する	0 0						
	【授業 第1回 第2回 第3回	論文の機能・構成・作成及 主要なデータベースについ	ヽて概記	说(ハンドアウト)		•					
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,										
評価	5方法	授業への貢献、発表 90% 最終レポート 10% (全回出席を前提とし、欠席	につい	ては減点する)							
	斗書・ 書文献等	必要に応じてハンドアウトを	配布す	-3.							
授業	授業内では基本的に日本語を用いる。必要に応じて基本的事項を確認できるようにする。 WebClass 等で配布資料や動画の URL 等を参照できるようにする予定。 少人数の受講を想定しているため開講時間については調整可。										
	7ィス ワー										
	Eへの セージ	特に授業内での発表の準備に 2 倍程度を目安とする。	は十分	な時間をかけることが	期待され	いるが、標準的に	こは授業時	間の			

授業	科目名	看護理論	担业			年次		時間数	30		
授業	 ド形態	講義	担当教員	伊藤	美樹子	前・ 後期	1 年次前期	単位数	2		
授業目的		看護実践の基盤となる看護お 看護実践に適用できる能力を高		車分野の言	者理論を批判 的	りに理解	し、理論を用い	って看護現	象の説		
到達目標											
回数	回数 授業内容 1 オリエンテーション 2 ヒューマン・ケアリング理論① 3 ヒューマン・ケアリング理論② 4 適応看護理論① 5 適応看護理論② 6 発達段階理論① 7 発達段階理論② 8 自己決定理論 9 行動変容理論 10 家族システム論 11 サクセスフル・エイジング・モデル 12 セルフケア理論① 13 セルフケア理論① 14 アンダーセン・モデル 15 コミュニティ・エンパワメント										
教科		各授業担当者より別途指定									
	書文献 等										
授業	形式	講義、視聴覚教材の視聴、院	5生のプ	゚レゼンテ	ーション等を	もとにし	た討論				
	'ィス ワー	各授業担当者より別途指定									
	セージ										

授業	科目名	看護	<u></u> 倫理	扫		年次	1 5 75	時間数	30
授業	美形態	講	義	担当教員		前· 後期	1 年次 後期	単位数	2
授業目的	が置かる検討する	れている状況か	ら生じている儱	論理上の	・理論を学び、今日ので)問題について、看護 における倫理的配慮』	者として	どう判断し、ど	う行為すべ	べきか、
到達目標	 ケア 臨床 看護 	の倫理の視点か で直面する倫理 研究を行う際の	ら、看護者の 的問題につい 倫理的配慮が	責任及で て、倫理 理解でき	既念基盤について理解 び行為について理解て 里的にとらえなおして きる。 里解し、組織のあり方	きる。 判断する		ぎきる。	
回数					授 業 内 容				
	【授業計画】 第1回 ガイダンス、医の倫理と生命倫理 第2回 生命倫理と人権 第3回 生命倫理の視点から考える脳死・臓器移植 第4回 看護の倫理 第5回 看護実践とケアリング 第6回 看護における倫理的課題の分析 第7回 倫理的分析の実際 第8回 倫理的分析の実際 第9回 倫理的分析の実際 第10回 倫理的分析の実際 第11回 倫理的分析の実際 第11回 倫理的分析の実際 第12回 倫理的分析の実際 第13回 倫理的分析の実際 第14回 組織における倫理 第15回 まとめ								
評価	方法	最終レポート 8	30%、授業にお	おけるテ	ディスカッション 20%				
	書· 書文献 等	ンド, 2015		日部健言	司・伊東隆雄(著): 医	療倫理学	の ABC 第3片	反,メヂカ	ルフレ
授業	講義・ディスカッション 授業形式								
	オフィス アワー								
	課題学習および討論等の授 学生への メッセージ			への積	極的な参加を求めます	† 。 			

				Ţ	ı	Т	1	ı
授業	科目名	看護管理学	担当		年次	1 年次	時間数	30
授第	Ě形態	講義	担当教員		前· 後期	後期	単位数	2
授業目的		・保健医療福祉における看護の役 提供していくための組織と看記			句上を図	図り、効率的、対	効果的な看	護サー
到達目標	2. 日本	隻管理に必要な基本的な諸理論 本及び諸外国の看護管理の実践 隻管理の効果的な在り方や課題	に関す	る研究動向を文献から把				
回数				授 業 内 容				
	第 第 第 第 第 第 第第第第 第 第 第 第 13 回 回 回 回 回 回 回回回回回回回回回回	・グループマネジメント 看護サービスの質管理(1) ・看護サービスの組織化・ケ	里者 上 : ニュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	の動向 子) 目織構造・組織文化・組織子) 講師:清水房枝) 変革と業務改善 講師:清水房枝) 変革とに表かず情報管理 に対しる経済性 ・部講師:西村路子) 護管理における倫理的意 の動向		プロセス		
=\(\tau\)					· (400/)		
高 半 1世	5方法 	講義への参加度(20%)、プレ	<i>、</i> センフ	「一ンョン (4U%)、レボ 		40% <i>)</i>		
	書・	適宜紹介						
授業	美形式	講義、大学院生のプレゼンテ	ーショ	ンを基にした討論				
オフ	1ィス							
アリ	ワー							
	事前学習、課題に積極的に取り組み、臨床や地域の場における様々な課題について、看護管理学の 学生への 視点から積極的に討論し、自己の研究課題が明確になるような学びを期待します。 メッセージ 履修を希望する院生は、必ず受講登録前に研究室までお越しください。							理学の

授業	科目名	コンサルテーション論	担			年次	1 4 4	時間数	30
授美	業形態	講義	担当教員	河村	奈美子	前· 後期	1年次 前期	単位数	2
授業目的	 コンサルテーションの理論的若組を理解する 臨床場面におけるコンサルテーションの実際について捉える 組織の危機を理解し、解決について考える 事例によりコンサルテーションのモデルやタイプ、グループの力動関係を考え、マネジメント、コントロール、調整を議論する 								
到達目標	対人サービスに従事する人が抱える大きなストレスとそこに抱えられた無意識の問題や要因について、個人の病理や脆弱性とのみ捉えるのではなく、組織の持つ問題として考えていく力を養い、解決するためのコンサルテーションについて修得する。								
回数				授業	内容				
	組織のコロールフ ロールフ 【授業記	ナルテーションやスーパービュ ① コンサルテーションの ② コンサルテーションの[考える。 ナルテー ジョに 既 悪標や 記	-ションの D概念規定 関する解説 意義につい	実際を学ぶ。 と目標および意		個人のコン	サルテーシ	ション、
	第4回	0 1/0			の解説				
	第5回	面接における代表的な技法とう ① 精神療法の技法と効果に ② カウンセリングの技法 ③ ケースワークの技法と	こついて と効果に	こついて					
		目談とは①) 看護相談の意義と特徴につい	いての角	罕 説					
	1	目談とは②) 看護相談の実践方法と課題(こついて	の解説					
	〔相談 第10回 第11回 第12回 第13回	② その学修を支援する技 到 ③ スーパービジョンの ④ その学習を支援する技 到 ⑤ 教育分析の実践につい ⑥ その学習を支援する	の実践にで 支践にで 支送にで すっちまして さいまして さいまして さいまい さいまい さいまい さいまい さいまい さいまい さいしゅう かいまい かいまい かいまい かいまい しゅう かいまい かいまい しゅう かいまい しゅうしゅう しゅう	こついて ういて ういて ういて	違いについて)				
	(事例検討の方法) 第14回 (1)事例検討会(ケースカンファレンス)の意義と現状 第15回 (2)事例検討会における集団力動と役割分担 第16回 (3)小集団によるコンサルテーションとスーパービジョンの事例検討〕								
	〔看護領域におけるコンサルテーションとスーパービジョン〕第17回 (1)コンサルテーションやスーパービジョンを支える看護管理体制①第18回 (1)コンサルテーションやスーパービジョンを支える看護管理体制②								

第第第第 〔第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第	回 (2)コンサルテーションやスーパービジョンの実際② 回 (2)コンサルテーションやスーパービジョンの実際③ 回 (2)コンサルテーションやスーパービジョンの実際④ ゾン精神看護やプリセプターシップの現状と課題① 回 リエゾン精神看護の現状と課題② 回 リエゾン精神看護の現状と課題③ 回 リエゾン精神看護の現状と課題③ 回 リエゾン精神看護の現状と課題④ 回 プリセプターシップの現状と課題① 回 プリセプターシップの現状と課題② 回 プリセプターシップの現状と課題②
評価方法	プレゼンテーション(50%)および授業の際の積極的参加度(50%)により総合的に評価する。
教科書· 参考書文献等	アントン・オブホルツァー、ヴェガ・ザジェ・ロバーツ(2014)。組織のストレスとコンサルテーション:対人援助サービスと職場の無意識(武井麻子監訳).金剛出版
授業形式	授業内容と方法は履修者の人数や出自によって適宜調整するが、基本的には講義と演習・討論により実施する。 受講生の希望に従って例年は夏季集中講義で開講してきたが、単位数の変更にともない時間数が増加したため、数日間連続あるいは数回に分けての集中開講になる予定である。開講日時については、社会人学生が多いため相談に応じることとする。
オフィス アワー	
学生への メッセージ	事前学習や課題学習および授業中の討論への参加などにおける真摯で積極的な学びの態度を切に 希望する。授業相談については、電話やメールで事前連絡の上、時間調整することを前提に適宜対 応する。

		T		1	1				1	
授業	科目名	看護教	教育学	担当	& m	21 ¥	年次	1年次	時間数	30
授業	美形態	講	義	担当教員	桑田	公 夫	前· 後期	前期	単位数	2
授業目的	看護学	を学ぶ学生の学	習活動をどの	ように言	十画し、導き	、評価する	るかについ	いて包括的に学	~Š*°	
到達目標		獣の講読と討議 画・支援・評価					育を取り	巻く複雑な環境	竟の中で行	われる
回数					授業内	容				
	【第第第第第第第第第第第第第第第第第第123111111111111111111	看看看看本卒卒卒授授授教教養教教教教続続続続やややにに	実習展開を支	文文文論論論論えええクククリークググググのの文文文文るるるリリアググググでである。Tea	Jティーク② Jティーク③ Jティーク④ カリティーク カリティーク カリティーク aching&Learr aching&Learr イーク① ィーク②	① ② ③ ④ uing に関す iing に関す	る論文の)クリティーク()クリティーク()クリティーク(2	
評価	方法	授業への取り新 学生の主体的			ィゼンテーシ	ョン(60%)	により評	価する。		
	書· 字献等	特に指定なし。参考文献は、記		个する。						
授業	形式	学生によるプロ 各自関連文献を					ョンを行	うこと。		
	/ィス フー									
	こへの セージ									

		1		_		T	1				
授業	科目名	看護政策論	担业		年次	1 年次	時間数	30			
授業	美形態	講義	担当教員		前· 後期	後期	単位数	2			
授業目的	携・協働	の看護制度や保健・医療・看護 動の在り方や看護職の関与の在 で、政策形成過程の実践におり	り方等	を理解し、看護の現場だ							
到達目標											
回数	回数 授業内容										
	第1回 看護政策の意義・制度 第2回 看護政策の変遷 第3回 看護・保健福祉関連の法・制度 1 第4回 看護・保健福祉関連の法・制度 2 第5回 看護政策の課題 1 第7回 看護政策の課題 2 第8回 看護政策の決定過程 第9回 政策形成過程と看護職の役割 第10回 看護職の政策課題に関するプレゼンテーション・討議 第11回 看護職の政策課題に関するプレゼンテーション・討議 第12回 看護職の政策課題に関するプレゼンテーション・討議 第13回 看護職の政策課題に関するプレゼンテーション・討議 第14回 看護職の政策課題に関するプレゼンテーション・討議 第15回 看護職の政策課題に関するプレゼンテーション・討議										
評価	方法	レポート(40%)、ディスカッ	ション	ィ (30%)、プレゼンテー	・ション	(30%)					
	教科書・ テキスト;講義の中で随時紹介する。 参考書文献等										
授業	ファイン 講義、ゼミナール 授業形式										
	'ィス ワー										
	学生への メッセージ 履修を希望する大学院生は、必ず受講登録前に電話やメールでの事前連絡の上、研究室までお越し ください。										

授業	科目名	臨床解剖	刊生理学	担业		年次	1年次	時間数	30
授業	羊形態	講	義	担当教員	相見良成	後期	後期	単位数	2
授業目的		対眼レベルから 印見を踏まえて			態と、それぞれのレ	ベルでの <u></u>	主理機能を、臨	床的な視点	気から、
到達目標	到 人体の構造と機能についての理解を深め、臨床の場でより高いレベルの看護を行うために、このような知識 達 を応用する能力を身につける。 目 標								
回数					授 業 内 容				
	1. 筋骨格系と神経系にわたる体性運動系の機能解剖生理学 2. 組織学から病理学にかけての細胞生物学 3. 内臓性各器官の構造と機能の連関についての基礎と臨床								
評価	方法	受講態度、レ	ポート、試問な	どによ	り総合的に評価する。				
教科	書・	教科書は指定	しない。講義は	主にハ	ンドアウトとスライ	ドを用いて	で行う。		
参考書	主文献等								
授業	熊式	講義							
オフィス									
アワー									
	Eへの セージ	これまでに習行 ただけると幸い	导した臨床事項 いです。	を含む	、最も基礎となり、最 様々な知識・経験をP ned.ac.jp まで。				

		1		T					
授業	科目名	臨床薬理学	担当		年次	1年次	時間数	30	
授業	美形態	講義	担当教員	佐々木 雅也	前· 後期	前期	単位数	2	
授業目的		外科系で用いる薬剤の効能、 習得する。	適応と	なる疾患、合併症について	を学習	し、看護の気	実践に活用	できる	
到達目標		実践において必要と考えられる ことを目的とする。	3薬理学	^ど の知識につき学習し、高度	なケア	の実践に活力	いしうる能	力を獲	
回数	授業内容								
	する。								
評価	方法	出席状況・受講態度とレポ テーションも実施する。	ートに	より総合的に評価する。レ	ポート	については、	院生のプ	レゼン	
	書・								
講義と演習にておこなう。 授業形式									
	オフィス アワー								
	Eへの セージ								

授業	科目名	臨床診断学	担		年次	4 4 > 4	時間数	30	
授第	業形態	講義	担当教員	遠藤 善裕	前・ 後期	1年次 前期	単位数	2	
授業目的	ス 2. そ 走	部ドレーンの抜去等、縫合等 <i>0</i> トーマ肉芽の焼灼など)、褥瘡	の壊死	組織のデブリードマン等 る残尿測定)経膣的膀胱頚					
到達目標	数 授業內容								
回数									
	接業内容 系統的臨床診断学と特にストマ・排泄ケアに必要な臨床診断、臨床的推論、フィジカルイクザミネーションを講義・演習する。 【授業評価】 第1回 (序 論) 臨床診断学についての理解を深める。 第2回 (総論1) 診断に至るまでの思考プロセスを理解する。 第3回 (総論2) 臨床診断学における、バイタルサイン診察法について理解する。 第4回 (総論3) 臨床診断学における、医BMとその応用、について理解する。 第5回 (各論1) 臨床診断学における、放射線診断について理解する。 第6回 (各論2) 発熱の診断について理解する。 第7回 (各論3) 腹部内臓疾患の診断学について理解する。 第8回 (各論4) 血液疾患の診断について理解する。 第9回 (各論5) 循環器疾患の診断について理解する。 第10回 (各論6) 呼吸器疾患の診断について理解する。 第11回 (各論7) 代謝性疾患の診断について理解する。 第12回 (各論8) 救急疾患の診断について理解する。								
評価	5方法	出席状況・受講態度および授	業の際	の積極的参加度(50%)と、	試験(50	%)により総	合的に評価	五する。	
	和書・ 教科書は特に指定しない。 なお、授業のための資料はその都度配付する。 (書文献等								
授業	授業内容と方法は履修者の人数によって適宜調整するが、基本的には講義と演習・討論により実 施する。								
	オフィス アワー								
_	事前学習や課題学習および授業中の討論への参加などにおける真摯で積極的な学びの態度を切 生への に希望する。授業相談については、電話やメールで事前連絡の上、時間調整することを前提に随時 ソセージ 対応する。								

授業	科目名	疾病予防学	担业	= 0	/+-+	年次	1~2年次	時間数	30
授業	美形態	講義	担当教員	音 多	伸幸	前· 後期	前・後期	単位数	2
授業目的		に伴い疾病予防の重要性が再記 今後の疾病予防の展望を明らた			見状を鑑み、様々	な疾病	の病態を理解	し、最新の	知見を
到達目標	様々な	疾病に関する病態を理解し、?	その診断	f、介入、	最終的に最新の	知見に	則った疾病予	防の概要を	学ぶ。
回数				授業	内 容				
	妊娠中の	慣病の発症状況、その病態 の胎児発育や出生後の栄養状態 からの介入方法の検討	崇が将来	医的に関与	手する因子の解析	Í			
評価	方法	出席:20%、討論への参加態 合的に評価する。	度:30	%、プレ [.]	ゼンテーション	ならびに	こレポート課題	夏:50%に	より総
97.1	書· 文献等								
授業	形式	講義:50%、討論:50%							
オフィス アワー									
	生への ・セージ								

授業	科目名	フィジカルアセスメント	担		年次	1~2	時間数	2	
授業	美形態	講義	担当教員	遠藤善裕	前· 後期	年次通年	単位数	30	
授業目的	し、臨	ら高齢者、在宅から救急医療まで 床看護判断を行うために必要な身 ントに必要な基礎能力を養う。							
到達目標	・身体診察基本手技の理論と方法論を理解できる。 ・各部位の身体診察手技を行うことができる。 ・身体診察手技から得られた所見についてアセスメントができ、説明できる。 ・事例検討を用いて、患者の病態や必要な対処を判断することができる。 ・小児・高齢者のフィジカルアセスメントの特性が理解できる。 ・救急医療や在宅医療で必要なフィジカルアセスメントが理解できる。								
回数									
	(学ぶべき事項) 1. 身体診断・診断学(演習含む)を学ぶ。 1) 身体診察基本手技の理論と演習・実習 2) 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習 全身状態とバイタルサイン/頭頸部/胸部/腹部/四肢・脊柱/泌尿・生殖器/乳房・リンパ節/神経系 3) 身体診察の年齢による変化 小児/高齢者 4) 状況に応じた身体診察 救急医療/在宅医療								
評価	方法	e-learning のコマ毎の確認テスレポート、授業への取り組み、				を行う。そ	の他、出席		
教科参考書	書· 文献等	e-learning テキストは、配布する	3.						
授業	高度実践コース(特定行為領域)で専攻する方は、e-learningで学習した後、面接授業にて学び 業形式 をさらに深める。症例検討など演習も含む。面接授業では e-learning はコマ毎に確認テスト、お よび筆記試験がある。								
	フー フー								
	高度実践コース(特定行為領域)を専攻する方は <mark>必修</mark> とする。 セージ								

		1	1	T	1	1	1	1		
授業	科目名	疾病・臨床病態概論	担当	X 10	年 次	1~2	時間数	3 0		
授業	美形態	講義	担当教員	遠藤・善裕	前·後 期	年次 通年	単位数	2		
授業目的	診断、治	・ 患(5疾病)及び、臨床の場で 台療について学ぶ。また多様な る能力を養う。								
到達目標	達 3)急変時対応に関する EBM、急変の場面で必要な観察や判断力を身に付け実践で応用する能力を身に付ける。									
回数	授業內容									
	1. 主要疾患(5疾病)の臨床診断・治療学を学ぶ。 1)5疾病の病態と臨床診断・治療の概論 悪性腫瘍/脳血管障害/急性心筋梗塞/糖尿病/精神疾患 2)その他の主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系/呼吸器系/消化器系/腎泌尿器系/内分泌・代謝系/免疫・膠原病系/血液・リンパ系/神経系/小児科/産婦人科/精神系/運動器系/感覚器系/感染症/その他 2. 年齢や状況に応じた臨床診断・治療(小児、高齢者、救急医学等)を学ぶ。 3)小児の臨床診断・治療の特性と演習 2)高齢者の臨床診断・治療の特性と演習 3)救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 4)在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習									
評価	方法	e-learning のコマ毎の確認テレポート、授業への取り組み				行う。その	D他、出席	日数、		
教科	書・	e-learning テキストは、配布 ⁻	する。							
参考書	主文献等									
授業	高度実践コース(特定行為領域)で専攻する方は、e-learning で学習した後、面接授業にて学びを さらに深める。症例検討など演習も含む。面接授業では e-learning はコマ毎に確認テスト、および 授業形式 筆記試験がある。									
	'ィス ワー									
学生	アワー 高度実践コース (特定行為領域) を専攻する方は必修とする。 空生への ツセージ									

		_	ı			1	Т		ı	
授業科目名		臨床推論丨	担业		· * *\\	年次	1~2年	時間数	3 0	
授第	羊形態	講義	担当教員	遠藤	善裕	前· 後期	次 通年	単位数	2	
授業目的	設療のプロセスで必要となる臨床推論の理論、医療面接、臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学の基礎を学び、医学の診方や思考プロセスを看護実践に取り入れ、応用する力を養う。 自的									
到達目標	臨床診断学、臨床検査学、症候学などを学び、病態の変化などを迅速に捉えてアセスメントする能力を身に付ける。また、臨床推論や医療面接の基本的な概念を理解し、医学の臨床診断プロセスの思考過程を学ぶ。これらの学びから特定行為を行う看護職に必要なスキルを見出すことができる。									
回数				授業	内容					
	臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ 1)診療のプロセス 2)臨床推論(症候学を含む)の理論と演習 3)医療面接の理論と演習・実習 4)各種臨床検査の理論と演習 心電図/血液検査/尿検査/病理検査/微生物学検査/生理機能検査/その他の検査 5)画像検査の理論と演習 放射線の影響/単純エックス線検査/超音波検査/CT・MRI/その他の画像検査 6)臨床疫学の理論と演習									
評価	方法	e-learning のコマ毎の確認テレポート、授業への取り組み					を行う。その)他、出席	日数、	
教 科	書・	e-learning テキストは、配布する。								
参考書	主文献等									
授業形式		高度実践コース(特定行為領域)で専攻する方は、e-learningで学習した後、面接授業にて学びを さらに深める。症例検討など演習も含む。面接授業では e-learning はコマ毎に確認テスト、および 筆記試験がある。								
オフィスアワー										
学生への メッセージ		高度実践コース(特定行為領	域)を	専攻するフ	うは必修とする。					

授業科目名授業形態		臨床推論Ⅱ	担当	11.11. 40.41	年次	1~2	時間数	3 0			
		講義	教	前· 後期	年次通年	単位数	2				
授業目的	臨床推論(基礎)から、さらに周術期管理領域に特化した臨床推論を学ぶ。患者に対する医療面接、診察、検査等の情報を収集し、起こっている現象を医学的捉え、その病態を診断するまでの思考過程を学ぶ。とくに鑑別診断に必要な病態生理、臨床的特徴などの医学的知識を実例の中で積み上げることにより、高度看護実践に応用する。										
到達目標	・周術期の高度看護実践において、複雑な健康問題を持つ対象に対して臨床判断を行うための知識と技術を修得する。 1. 周術期管理の特徴を踏まえた病態把握と処置・治療の選択について説明できる。 2.周術期において原疾患、術式、麻酔法を考慮した臨床推論を行うために必要な知識と技術について理解できる。 3.周術期の頻度の高い病態において、重症度や緊急度を考慮した診療のプロセスを理解できる。 4.周術期の高度看護実践において臨床推論の意義と活用について考察できる。										
回数				授 業 内 容							
評価	i方法	プレゼンテーション、レポー	ト、出	席日数、授業への取り組み、	態度な	こどにより糸	総合的に評	価する。			
教科書· 参考書文献等		周術期管理チームテキスト第	3版、2	公益社団法人日本麻酔科学会	・周術期	期管理チー	ム委員会線	扁、2016			
授業形式		面接授業									
オフィスアワー											
学生への メッセージ		高度実践コース(特定行為領 Advanced コースであり、臨り	,	を履修済、もしくは特定行	為研修を	を修了した	者であるこ	こと。			

授業科目名		特定行為実践論	担当		去关	年次	1~2年次	時間数	30		
授弟	美形態	講義	担当教員	占 松	直美	前· 後期	通年	単位数	2		
授業目的											
到達目標	看護職の役割・業務は拡大している。その医療現場において必要となる、チーム医療、コンサルテーション、特定行為実践に関する法規、手順書について理解を深める。また、特定行為を実践する看護職の役割について考える。具体的には、特定行為の手順書について学び、活用するプロセスについて学ぶ。さらに特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ。また、これらを学びから特定行為実践の展開を想像して概念化できる。										
回数				授業	内 容						
	 3職種協働実践(Inter Professional Work (IPW))(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ チーム医療の理論と演習・実習 チーム医療の事例検討 コンサルテーションの方法 多職種協働の課題 ※特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割を含む 特定行為実践のための関連法規を学ぶ 特定行為関連法規 インフォームドコンセント理論 インフォームドコンセント演習 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ										
評価	方法	e-learning のコマ毎の確認テレポート、授業への取り組み					倹を行う。その↑	他、出席日	数、		
	書· 書文献等	e-learning テキストは、配布する。									
授業形式		高度実践コース(特定行為領 さらに深める。症例検討など 筆記試験がある。			•	_					
	'ィス ワー										
学生への メッセージ		高度実践コース(特定行為領	域) を	専攻する	方は必修とする	0					

授業科目名		特定行為実践演習	担		年次	1~2年次 前·後	時間数	30		
		演習	担当教員	宮松 直美	前· 後期		単位数	1		
授業目的	根拠に基づいて手順書を作成し、評価し、改良するプロセスについて学ぶ。また、特定行為に必要なインフォームドコンセントや自身のフィールドで、特定行為を行う意義や活動計画を示し、グループディスカッションを行う。									
到達目標	手順書の構成要素を理解し、安全と裁量を勘案して自己のフィールドに則した活用と改良ができる。 到 看護職が特定行為を行うことで患者やチーム医療、組織に対するメリットを考察し、その意味・意義・役割 について説明できる。 標 特定行為実践を振り返り、評価する方法を探索する。									
回数				授 業 内 容						
	3. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ 1) 手順書の位置づけ 2) 手順書の作成演習 3) 手順書の評価と改良 4. 特定行為の実践におけるアセスメント仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ。 1) 特定行為の実践過程の構造 2) アセスメント、仮説検証、意思決定の理論 3) アセスメント、仮説検証、意思決定の演習									
評価	方法	e-learning のコマ毎の確認テ ションへの積極性やレポート					且み、ディ	スカッ		
教科	書・	e-learning テキストは、配布 ⁻	する。							
参考書	主文献等									
授業形式		高度実践コース(特定行為領 さらに深める。プレゼン型デ に確認テスト、および筆記試	ィスカ	ッションなどの演習も含	_					
オフィス										
ア「	7-									
, ,	Eへの セージ	高度実践コース(特定行為領	- 域)を	専攻する方は必修とする	- - -					

				1				1	1
授業科目名		診療看護実践論	担业		真由子	年次 前· 後期	1~2年次	時間数	30
授業形態		講義	担当教員	上村 真			前・後	単位数	2
授業目的	法規につ	での診療看護師育成および活動 ついて学ぶ。また、各専門領域 て、討論を通して学ぶ。							
到達目標	各専門領域における診療看護師の役割と担いうる業務、診療看護師の活動の評価方法について理解する。								
回数				授 業 内	容				
	第1回 オリエンテーション 第2回 小児看護学領域における診療看護師の役割① 第3回 小児看護学領域における診療看護師の役割② 第4回 成人看護学領域における診療看護師の役割② 第5回 成人看護学領域における診療看護師の役割② 第6回 老年看護学領域における診療看護師の役割③ 第7回 老年看護学領域における診療看護師の役割② 第8回 精神看護学領域における診療看護師の役割② 第9回 精神看護学領域における診療看護師の役割② 第10回 母性看護学領域における診療看護師の役割② 第11回 母性看護学領域における診療看護師の役割② 第12回 在宅看護学領域における診療看護師の役割② 第13回 在宅看護学領域における診療看護師の役割② 第14回 診療看護師による諸活動の評価① 第15回 診療看護師による諸活動の評価②								
評価	方法								
教科書・ 参考書文献等									
授業形式									
オフィス アワー									
学生への メッセージ									

				T		T	1	1	
授業	科目名	基礎看護学 特論	担当		年次	1 年次	時間数	30	
授美	業形態	講義	担当教員		前· 後期	前期	単位数	2	
授業目的		護学領域のテーマ(実践・教育 化と研究デザインを考究する。	・管理)の基盤となる理論と	課題につ	いて概観し、E	自己の研究	テーマ	
到達目標	2.看 3.看 4.看	護実践や看護教育学に関連する 護実践や看護教育の現状とその 護管理学に関連する理論とその 護管理学の現状とその課題につ 護管理の基礎看護学に関連した)課題に)発展過 いて理	こついて理解する。 過程について理解する 関解する。		3.			
回数				授 業 内 容					
	【授業計画】 1 回目 ガイダンス 看護実践のエピデンス 2 回目 看護実践の検証方法 3 回目 看護実践に関連する研究論文のクリティーク 4 回目 看護実践に関連する研究論文のクリティークとプレゼンテーション① 5 回目 看護実践に関連する研究論文のクリティークとプレゼンテーション② 6 回目 看護教育学と看護教育 看護教育の歴史と制度 7 回目 看護教育に関連する理論と専門職看護の育成 8 回目 看護教育に関連する論文のクリティーク 9 回目 看護教育に関連する論文のクリティークとプレゼンテーション① 10 回目 看護管理概説 11 回目 看護管理に関連する論文のクリティーク 12 回目 看護管理に関連する論文のクリティークとプレゼンテーション 13 回目 自己の研究課題に関連する論文のクリティークとプレゼンテーション① 14 回目 自己の研究課題に関連する論文のクリティークとプレゼンテーション② 15 回目 まとめ								
評価	五方法	レゼンテーション(40%)	レポ	ート (30%) 参加	度(2()%)			
	ジョン・デューイ/市村尚久訳:経験と教育,講談社学術文庫 ジーン・レイヴ他/佐伯胖訳:状況に埋め込まれた学習一正統的周辺参加,産業図書 ドナルド・ション/佐藤学他訳:専門家の知恵,ゆるみ出版 中村 雄二郎/臨床の知とは何か:岩波新書								
授業	美形式	講義、視聴覚教材の視聴、院	生のプ	レゼンテーション等を 	もとにし	た討論(ゼミ	ナール)		
	7ィス ワー								
	学生への みなさんが今関心のあるテーマを中心にすすめていきたいと思います。問題意識をもってのぞんでください。 メッセージ **								

_				1	1	T			
授業	科目名	基礎看護学 演習 A	担当		年次	1 年次	時間数	30	
授弟	業形態	演習	担当教員		前・後期	後期	単位数	1	
授業目的		- 護学領域に関連する研究論文と レゼンテーション・討論を通し						ィーク	
到達目標	2.各自6 3.各自6	の研究課題に関連した国内外の の研究課題に関連した研究手法 の研究課題に関連した研究手法 の研究課題の研究デザインが訪	につい の倫理	て説明できる。 的問題について考察でき					
回数				授 業 内 容					
	第1回 ガイダンス 関心のあるテーマについて討論 第2回 各自の研究課題に関連した国内文献のクリティーク①質的研究 第3回 各自の研究課題に関連した国内文献のクリティーク②量的研究 第4回 各自の研究課題に関連した海外文献のクリティーク②量的研究 第5回 各自の研究課題に関連した海外文献のクリティーク②量的研究 第6回 各自の研究課題に関連したキーワードについて文献を用いて討論② 第8回 各自の研究課題に関連したキーワードについて文献を用いて討論③ 第9回 各自の研究課題に関連した研究手法① 第10回 各自の研究課題に関連した研究手法② 第11回 各自の研究課題に関連した倫理的問題① 第12回 各自の研究課題に関連した倫理的問題② 第13回 各自の研究課題の研究デザインの検討① 第14回 各自の研究課題の研究デザインの検討② 第15回 まとめ								
評価	五方法	ゼミナールへの参加度(20%)レオ	ペート(40%) プレゼン	テーシ	∃ > (40%)			
教科	書・	適宜提示します。							
参考書	参考書文献等								
講義、視聴覚教材の視聴、院生のプレゼンテーション等をもとにした討論 授業形式					た討論(ゼミ	ナール)			
	7ィス ワー								
	Eへの セージ	研究デザインを明確にしてい	きます	。積極的な参加を求めま	ます。				

			T.				r	•		
授業	科目名	基礎看護学丨演習B	担当		年次	2 年次	時間数	30		
授美	Ě形態	演習	担当教員		前· 後期	前期	単位数	1		
授業目的		- 護学領域に関連した自己の課 察等の研究の一連のプロセスを 学ぶ。								
到達目標	2. 各 3. 各 4. 各	自の研究テーマの意義を明確に自の研究デザインを多面的に対 自の研究に関連したデータのは自の研究に関連したデータの動 自の研究に関連したデータの動 自の研究に関連した論文のまと	食討でき 双集方法 隆理・分	きる。 まを検討できる。 分析を行うことができる。	,					
回数				授業内容						
	第1回 関連研究に関する資料・文献を収集し、問題点を掘り下げる。 第2回 研究デザインを多面的に検討する。 第3回 先行研究のクリティーク データの収集・分析② 第4回 先行研究のクリティーク データの収集・分析③ 第5回 先行研究のクリティーク データの収集・分析③ 第6回 各自の研究に関連する分析方法の検討① 第7回 各自の研究に関連する分析方法の検討③ 第9回 各自の研究に関連する分析方法の検討④ 第10回各自の研究に関連する分析方法の検討⑤ 第11回 考察の視点・論文のまとめ方① 第12回 考察の視点・論文のまとめ方② 第13回 考察の視点・論文のまとめ方③ 第14回 考察の視点・論文のまとめ方④									
評価	访法	レポート(40%)、プレゼン・	テーショ	ョン(40%)、討議への参	参加度	(20%)				
教科	書・	適宜提示								
参考書	主文献等									
授業	講義、プレゼンテーション、 授業形式			討議						
オフィス アワー										
学生	Eへの セージ	事前学習や課題学習および討 授業日程は参加学生の希望を 履修を希望する大学院生は、 ください。	考慮し	て調整します。		· ·	肝究室まで	お越し		

		1		1							
授業	科目名	基礎看護学Ⅱ特論	担当		年次	1 年次	時間数	30			
授第	美形態	講義	担当教員	相見良成	前・後期	前期	単位数	2			
授業目的	はじめい	に細胞生物学を学び、さらにP	- 四大組絹	ぱについて順次講義を行	う。		,				
到達目標											
回数											
	1. 細胞生物学 2. 上皮組織 3. 支持組織 4. 筋組織 5. 神経組織										
評価	方法	受講態度、レポート、試問な	どによ	り総合的に評価する。							
	書・	教科書は指定しない。講義は	主にハ	ンドアウトとスライドを	を用いて	行う。					
	手形式	集中講義									
	'ィス ワー	随時受け付けます。まずはメ	ールで	aimi@belle.shiga-med.a	ac.jp ま	で。					
	セージ	医療の現場で人を理解する際 人を捉えることが不可欠です						点) で			

授業	科目名	基礎看護学Ⅱ演習 A	担业		年次	1 年次	時間数	30
授業	美形態	演習	担当教員	相見良成	前・ 後期	後期	単位数	1
授業目的		・ 歳器の組織標本を用い、微細権 早を知る。	* 特造を観	察する。組織標本の作品	戊を経験	することにより	リ、組織観	察の本
到達目標	本演習で	では、実習を通じて顕微鏡レヘ	ベルでの)人体の構造について学	٠ <u>٠</u> ٤٠٠,			
回数				授 業 内 容				
	2. 一舟	公染色と組織化学染色の顕微 動物である。 の顕微 動物である。 の顕微 動物である。 の顕微 動物である。 の顕微 動物である。 の関係 動物である。 の関係 動物である。 の関係 の関係 の関係 の関係 の関係 の関係 の関係 の関係	意標本の	の作製を行う。				
評価	i方法	受講態度、レポート、試問な	どによ	り総合的に評価する。				
教科 参考書	書・							
授業	形式	演習						
	ィス 7-							
	へのセージ							

				1							
授業	科目名	基礎看護学Ⅱ演習B	担当		年次	2 年次	時間数	30			
授業	美形態	演習	担当教員	相見良成	前・ 後期	前期	単位数	1			
授業目的	模型、電	骨標本および系統解剖体の観察	- 客を行う	0							
到達目標	本演習で深める。	ごは、人体の構造について肉眼	マレベル	での観察を行い、主に選	重動器に	ついての機能角	解剖学的な	理解を			
回数		授業內容									
		、分離骨格標本、交連骨格標本 刊見学実習における解剖体の観									
評価	方法	受講態度、レポート、試問な	どによ	り総合的に評価する。							
	学文献等										
演習 授業形式											
	'ィス フー										
	こへの セージ										

授業	 養科目名 基礎看護学Ⅲ特論	基礎看護学∥特論	担		年次	1 年次	時間数	30
授業	美形態	講義	担当教員	佐々木 雅也	前· 後期	前期	単位数	2
授業目的	栄養学を	E学び、臨床研究を実施する <i>0</i>)に必要	な知識とスキルを習得	する。			
到達目標	臨床栄養理解を選	豪に関する研究を実践するた♡ Ŗめる。	りに必要	な栄養アセスメント、タ	栄養管理	[法、病態別の第	や養療法に	ついて
回数				授 業 内 容				
	 栄養 経腸 静脈 	質目について、講義と院生によ アセスメント手法 栄養法(胃瘻管理を含む) 栄養法 別栄養療法		イゼンナーションをわこ	<i>/k</i> 7			
評価	方法	受講態度と課題レポートで評	価する。	0				
教科 参考書	書・							
授業	形式	講義						
	7ィス フー							
	こへのセージ							

授業	科目名	基礎看護学Ⅲ演習A	担		年次	1 年次	時間数	30			
授業	美形態	演習	担当教員	佐々木雅也	前· 後期	後期	単位数	1			
授業目的	栄養評価	■法に関する知識とスキルを≧	 得する	0.							
到達目標	演習を通	通じて、栄養代謝状態を評価す	†る手法	について学習する。							
回数		授業内容									
評価	方法	受講態度と課題レポートで評	価しま	す。							
教科 参考書	書・										
授業	形式	演習									
	'ィス フー										
	セージ										

授業	科目名	基礎看護学Ⅲ演習B	担	担生生物を存在を表現します。	年次	2 年次	時間数	30	
授業	美形態	演習	担当教員	佐々木	雅也	後期	前期	単位数	1
授業目的	経腸栄養	&法や静脈栄養法に関する知識	哉とスキ	・ルを習得する	,) ₀				
到達目標	演習を迫	昼じて、経腸栄養法や静脈栄 養	を法につ	いて学習する	,) 。				
回数				授 業 内	容				
		管理や経鼻経管栄養法につい							
	2. 甲心	静脈栄養法や末梢静脈栄養法	につい	(学習する。					
評価	i方法	受講態度と課題レポートで評	価しま	† .					
教科	書・								
参考書	文献等								
授業	形式	演習							
	ィス フー								
	セージ								

			1	<u> </u>	1	1		ı
授業	科目名	成人看護学丨特論	担当	*-#	年次	1 年次	時間数	30
授業	美形態	講義	担当教員	遠藤・善裕	前・後期	前期	単位数	2
授業目的		・ を研究・実践する上で必要とた 里解を深める。	る腫瘍	学、腫瘍病理学、腫瘍	- 易免疫学、	腫瘍診断学、腸	重瘍治療学	等につ
到達目標		重瘍に関する発生・進展機構、 究の動向を探る。	生体の	防御反応に関連した	景新の知り	見を学び、診断、	、治療、予	防に関
回数				授 業 内 容				
	がんの疫学がんの病態生理学がんの病因がんと免疫がん診断学 内視鏡診断学・治療学がん診断学 放射線診断学がん治療学 化学療法がん治療学 放射線治療学演習1演習2がん・腫瘍に関する基礎知識と最新の話題を提供する。総論は、講義。各論は、院生によるプレゼンテーションを主体とする。 【授業計画】 第1回 (総論) がんの疫学第2回 (総論) がんの病態生理学第3回 (総論) がんの病態生理学第3回 (総論) がん診断学、内視鏡診断学・治療学第5回 (総論) がん診断学、内視鏡診断学・治療学第6回 (総論) がん診断学 放射線診断学第7回 (総論) がん治療学 化学療法第8回 (総論) がん治療学 化学療法第8回 (総論) がん治療学 放射線治療学第9回 (各論) 演習1							
評価	方法	出席(20%)とプレゼンテーショ	ョン(509	%)、討論への参加態原	麦(30%)に	より総合的に評	平価する。	
粉彩	書・	特に教科書・参考書の類は設	けない					
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	文献等							
授業	講義では出来る限り資料配付を心掛けている。 授業形式 視聴覚機器:スライド、ビデオ、コンピューター液晶プロジェクターの活用							
	オフィス アワー							
	モへのセージ	大学院生の主体的な参加を望 オフィスアワー:随時可能、 遠藤善裕 yendo@belle.shiga-med.ac.jp 看護学科棟 6 階 605 室 電話:077-548-2440			――	――		

							I		
授業	科目名	成人看護学 I 演習 A	担当	\+++ \+\\	年次	1 年次	時間数	30	
授第	美形態	演習	担当教員	遠藤 善裕	前· 後期	後期	単位数	1	
授業目的		選における課題のうち、がん看 療、予防に関連した最新の知り			クリティ	カルケアなどで	を中心に、	その診	
到達目標		獲における課題のうち、がん₹ を題材とし、自らの研究に適し					を中心に覚	学習し、	
回数				授 業 内 容					
	成人看護における課題のうち、がん看護、周術期看護、緩和ケア、クリティカルケアなどを中心に、それらを題材とした研究テーマおよび方法論等につき検討する。								
評価	方法	出席(20%)とプレゼンテーショ	∃ ン(50°	%)、討論への参加態度(30%)に。	より総合的に評	価する。		
	書・ 主・ 文献等								
授業	形式	演習							
	'ィス ワー								
	モへのセージ	オフィスアワー:随時可能、 遠藤善裕 yendo@belle.shiga-med.ac.jp 看護学科棟 6 階 605 室 電話:077-548-2440	ただし	、不在時には、メールや	等で連絡	LTください。			

授業	科目名	成人看護学 演習 B	担业		年次	2 年次	時間数	30
授業	託態	演習	担当教員	遠藤 善裕	前· 後期	前期	単位数	1
授業目的		隻における課題のうち、がん看 §、予防に関連した最新の知身			ァリティ	カルケアなどを	を中心に、	その診
到達目標		隻における課題のうち、がん₹ ੲ題材とし、自らの研究に適し					を中心に覚	学習し、
回数				授 業 内 容				
		隻における課題のうち、がん看とした研究テーマおよび方法詳						
評価	方法	出席(20%)とプレゼンテーショ	ョン(50 ⁹	%)、討論への参加態度(3	30%)に。	より総合的に評	価する。	
教科 参考書	書・文献等							
授業	形式	演習						
	ィス 7 <i>ー</i>							
	ヘのセージ	オフィスアワー:随時可能、 遠藤善裕 yendo@belle.shiga-med.ac.jp 看護学科棟 6 階 605 室 電話:077-548-2440	ただし	、不在時には、メール等	等で連絡	みしてください。		

授業	科目名	成人看護学‖特論	担业		年次	1 年次	時間数	30
授業	美形態	講義	担当教員	宮松直美	前· 後期	前期	単位数	2
授業目的		- 盾環器疾患などの非感染性疾患 のあり方と研究課題を見出す。)) の各段階での看護に関	- 関する国	国内外の知見かり	ら、各専門	領域で
到達目標	2.それる	域での研究の動向を理解する ごれの疾病の予防・管理上、修 ごれの疾病の予防・管理上、看				月らかにする		
回数				授 業 内 容				
	2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	エンテーション 選器看護② 器器看護③ 器病看護② 素術看護② 素術看護② 手術関連疾患の予防と管理 酒・喫関連疾患の予防と管理 下レストラックを関連を表して、 が関連を表して、 を表して、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を、 を						
評価	方法	プレゼンテーション(50%)、 学生の主体的参加が重視され		D参加態度(50%)により約	総合的に	評価する。		
教科	書・							
参考書	文献等	(1.45-0.15)						
授業	外書講読形式。 授業形式 受講生は各テーマについての文献レビューを行い、プレゼンテーションすること。							
	'ィス フー							
_	こへの セージ	履修を希望する大学院生は、	必ず受	講登録前に研究室までい	ハらして	ください。		

授業	科目名	成人看護学 II 演習 A	担			年次	1 年次	時間数	30
授業	Ě形態	演習	担当教員	宮松 直	 重美	前· 後期	後期	単位数	1
授業目的	は、疾法、分	- 疾患、がんなどの非感染性疾; 病や健康水準、目的とする評値 听方法について学び、国内外の 基礎を習得し、NCD 予防・管	指標に 先行研	より調査・研究 究の批判的吟 [®]	究手法が算 味を通して	₹なる。 [自己σ	これらを理解す	するための 東および研	研究方 究計画
到達目標		性疾患(NCD)の予防と管理に する臨床的課題の抽出とそれを						る。また、「	NCD 看
回数				授業内	容				
	投業内容 NCD の予防と管理に関する看護における研究方法および分析方法を教授する。さらに、国内外の先行研究のレビュー、クリティークをもとにした討論を行う 提業計画 第1回 NCD 看護における研究方法① 第2回 NCD 看護における研究方法② 第3回 NCD 看護に関する研究での分析方法① 第4回 NCD 看護に関する研究での分析方法② 第5回 NCD 看護に関する研究での分析方法② 第5回 NCD 看護に関する先行研究のレビュー① 第6回 NCD 看護に関する先行研究のレビュー② 第7回 NCD 看護に関する先行研究のクリティーク① 第8回 NCD 看護に関する先行研究のクリティーク② 第9回 自己の研究課題に関連した先行研究のクリティーク② 第10回 自己の研究課題に関連した先行研究のクリティーク②								
評価	方法	プレゼンテーション(50%)、 学生の主体的参加が重視され		D参加態度(50%	6)により終	総合的に	評価する。		
教科	書・	授業内で提示する							
参考書	字献等								
授業	熊式	テキスト及び国内外の先行研 受講生は提示した課題の内容			ンすること	- 0			
オフ	1ィス								
アロ	ワー								
_	Eへの セージ	履修を希望する大学院生は、	必ず受	講登録前に連絡	絡してくた	ざさい。			

授業	科目名	成人看護学 II 演習 B	担当		年次	2 年次	時間数	30				
授美	羊形態	演習	担当教員	宮松 直美	前· 後期	前期	単位数	1				
授業目的	は、その	- 護実践の向上のためのエビデン の方法論が観察研究とは大きく ィークをもとに、介入研究の∑	異なる	。本科目ではテキストの	り精読お	よび介入研究!						
到達目標												
回数		授業內容										
	1.Introduction 2.Outcomes Reserch 3.The Theory-Driven Approach to Effectiveness Research 4.Characteristics of Clients 5.Intervener and Setting Characterristics 6.Intervention Variables 7.Outcomes-Related Factors 8.Implications for Effectiveness Research											
評価	方法	出席(20%)とプレゼンテーシ 学生の主体的参加が重視され		9%)、討論への参加態度	(30%)	こより評価する。)					
	書・	Evaluating Nursing Interventio Souraya Sidani, Carrie Jo Brad Sage Pubns,1997		heory-Driven Approach								
外書講読形式。 授業形式 受講者は各章を熟読の上、内容をプレゼンテーションすること。												
	'ィス ワー											
履修を希望する大学院生は、必ず受講会 学生への メッセージ				講登録前に研究室までい	ハらして	ださい。						

IT NIC	~! 						a+ aa w				
授業	科目名	老年看護学特論	担当	#D *4.7	年次	1 年次	時間数	30			
授業	 能	講義	担当教員	荻田 美穂子	前· 後期	前期	単位数	2			
授業目的	高齢化の を見出 ⁻	の国際的動向や我が国の保健福 す。	畐祉政策	での動向を理解し、高齢者 である。	* 者分野に	おける臨床課題	題および研	究課題			
到達目標											
回数				授 業 内 容							
	高齢者の保健統計 高齢者の保健福祉政策 高齢者の権利擁護 フレイル・要介護の疫学と予防 転倒・歩行障害のケア 認知機能障害のケア 排泄機能障害のケア 口腔・嚥下機能障害のケア 高齢者における慢性疾患の管理 高齢者の在宅療養移行支援										
評価	方法	プレゼンテーション(50%)、言	討議への	つ参加状況(50%)によ	り評価で	する。					
教科	書・										
参考	書文献										
4	等	William Resident	. ,	=\delta \(\) = \(\) = \(\)							
授業	学生によるプレゼンテーションと討議形式で行う。 各自関連文献を講読し、その内容についてプレゼンテーションを行う。										
	'ィス フー										
	履修を希望する大学院生は、必ず受講登録前に研究室までいらしてください。 学生への メッセージ										

授業	科目名	老年看護学演習 A	担		年次	1 左次	時間数	30				
授第	業形態	演習	担当教員	荻田 美穂子	前· 後期	1 年次 後期	単位数	1				
		↑ が陥りやすい健康障害(フレイ 献レビューを通して、在宅・Я					I 等等)に関す	る国内				
到達目標												
回数				授 業 内 容								
	フレイルに関する先行研究レビュー①② 老年症候群(転倒・嚥下障害・排泄障害・認知障害など)に関する先行研究レビュー①②③ 各自の研究課題に関連した先行研究のクリティーク①②											
評価	5方法	プレゼンテーション(50%)、 [討議へ <i>o</i>	つ参加状況(50%)によ	り評価で	する。						
教科	書・											
参考	書文献											
€	等											
授業	手形式	学生によるプレゼンテーショ	ンと討	議形式で行う。								
オフィスアワー												
履修を希望する大学院生は、必ず受講登録前に研究室までいらしてください。 学生への メッセージ												

授業	科目名	老年看護学演習 B	担当		年次	2 年次	時間数	30			
授美	 能	演習	担当教員	荻田 美穂子	前· 後期	前期	単位数	1			
授業目的		Ⅰ ⊅健康寿命の延命を目的とした 主要概念と理論、評価尺度を≒									
到達目標	高齢者の健康と生活を評価するための評価尺度について理解できる。 高齢者のフレイルや要介護予防、生活の質向上ののための効果的な介入方法について理解できる。 自身の研究テーマおよび研究方法論について探求する。										
回数				授 業 内 容							
評価	方法	プレゼンテーション(50%)、 [討議へ <i>o</i>	か参加状況(50%)によ	り評価で	する。					
参考	書・ 書文献 等	学生によるプレゼンテーショ	> , l ₂ =+	= 羊 エン +゚ースイニ- ニ							
授業 ————————————————————————————————————	形式	子土によるノレセノノーンヨ	/ C 高V	就//グエレビ1J ブ。							
	7ィス ワー	履修を希望する大学院生は、	必ず受	講登録前に研究室までし	, i i i i i i i i i i i i i i i i i i i	ください。					
	モへのセージ	7577 C 117 E 7 87 () 170 E 18 (~ , ~	ы ,							

	 科目名	小児看護学特論	10			年次		時間数	30
授業	美形態	講義	担当教員	桑田	弘美	前・後期	1 年次 前期	単位数	2
授業目的		I 息には多くの種類があるため、 ゼミ形式で子どもと家族が指						L なる。疾患	L 別に取
到達目標		まな慢性疾患を持ちながら生活 達との関連、特別な配慮が必要						の病気の特	ř徴、病
回数				授業内	容				
	【授業計画】 1.子どもの病気と発達との関連 2.小児慢性疾患治療研究事業と社会資源 3.呼吸器疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア 4.心臓・腎臓疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア 5.内分泌・代謝疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア 6.悪性新生物・血液疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア 7.神経・筋疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア 8.脳神経疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア 9.心身症をもつ子どもと家族の特徴とケア 11.子どもの障害の種類と実際 12.発達障害をもつ子どもと家族の特徴とケア 13.視覚・聴覚・言語障害をもつ子どもと家族の特徴とケア 14.特別支援教育の現状 15.在宅療養をする子どもと家族への支援								
評価	方法	出席状況、プレゼン、レポー	トによ	り総合的に	評価する。				
教科 参考書	書・								
授業	形式	パワーポイント、DVD などを	使用す	⁻ 3。					
	ィスフー								
	へのセージ								

授業	科目名	小児看護学演習 A	担业		年次	1 年次	時間数	30			
授第	Ě形態	演習	担当教員	桑田 弘美	前· 後期	後期	単位数	1			
授業目的	な存在と	は家族の中に誕生し、家族に育 としてとらえ、家族を含めて子 寸を行い、小児看護の実践にお	こどもの	健康を守るために支援で	する。各						
到達目標	成長・	ě達の理論について、その概念	念を学び	、実践能力を養う。							
回数				授業内容							
	1.セルフケア理論の概要 2.エリクソン自我発達理論の概要 3.ピアジェの認知発達理論の概要 4.親子関係論の概要 5.家族理論の概要 6.成長・発達の理論に関する文献検討 7.成長・発達の理論に関する事例検討										
評価	5方法	出席状況、レポートにより総	合的に	評価する。							
教科	書・										
参考	書文献										
=	等	成長・発達の理論をテーフレ	1 7	プレゼンテーションケ	-	+ 論する					
成長・発達の理論をテーマとして、プレゼンテーションを行い、討 授業形式] i i i y る。						
オフィス アワー											
	Eへの セージ										

授業	科目名	小児看護学演習 B	担业		年次	2 年次	時間数	30
授業	美形態	演習	担当教員	桑田 弘美	前· 後期	前期	単位数	1
授業目的	化する。							
到達目標	難病や障る。	章害のある子どもが、学校生活	舌を含め	て、在宅で QOL の高い	\生活を	営むための支持	爰について	考察す
回数				授 業 内 容				
		章害のある子どもの在宅ケア(它ケアの現状における問題点を					ごもに関わ	ること
評価	i方法	出席状況、プレゼンテーショ	ンとレ	ポートにより評価する。				
教科	.書・							
参考	書文献							
4	等							
授業	形式	子どもの在宅ケアについてブ	゚レゼン	テーションを行い、討請	論する。			
	ィスフー							
	と一ジ							

拉架	利日夕	ウイメンゴムルフ労性を				<i>t</i> -> <i>b</i>		14.10月米左	20		
欠果	科目名	ウイメンズヘルス学特論	担当教員	立岡	君子	年次前・	1年次	時間数	30		
授業	美形態	講義	教員	<u> </u>	, 7, 1	後期	前期	単位数	2		
授業目的	めに文詞	の生涯発達としてのライフスラ 献レビューを中心としてその h	・ピック	7スについてま	きとめ、研	究成果の	D活用について	理解を深ぬ	かる。		
到達目標	ある女	の健康概念をリプロダクティラ 生とその家族の健康問題につい し、支援に必要な基礎的能力を	て性差			.,					
回数	授 業 内 容										
	1.女性のライフサイクルにおける健康課題:胎児期 2.女性のライフサイクルにおける健康課題:幼児期 3.女性のライフサイクルにおける健康課題:思春期 4.女性のライフサイクルにおける健康課題:世成熟期 5.女性のライフサイクルにおける健康課題:更年期 6.女性のライフサイクルにおける健康課題:老年期 【授業計画】 第1回 女性の健康と生涯発達について 第2回 女性の健康と生涯発達について 第2回 女性の健康と生涯発達について 第4回 女性の健康とのルスプロモーション 第5回 女性の健康と理論 第6回 WHOにおける女性の健康への取り組み 第7回 女性のライフサイクル:胎児期における身体的健康課題 第8回 女性のライフサイクル:胎児期における心理的健康課題 第10回 女性のライフサイクル:思春期における心理的健康課題 第11回 女性のライフサイクル:思春期における心理的健康課題 第11回 女性のライフサイクル:更春期における身体的健康課題 第11回 女性のライフサイクル:東春期における身体的健康課題 第11回 女性のライフサイクル:東春期における身体的健康課題 第11回 女性のライフサイクル:更年期における身体的健康課題 第13回 女性のライフサイクル:更年期における身体的健康課題 第15回 女性のライフサイクル:更年期における心理的・社会的健康課題 第15回 女性のライフサイクル:更年期における心理的・社会的健康課題										
評価	5方法	出席(10%)、ディベート能力]およて	·ブレゼンテ-	ーション('	90%)					
	書・	立岡弓子編著;女性の健康と	看護,	サイオ出版,	2017.						
授業	態形式	講義,ディスカッション									
	'ィス ワー										
	Eへの セージ										

授業	科目名	ウイメンズヘルス看護学 演習	担当教員	立岡 弓子	年次前・	1 年次	時間数	30		
授業	 ド形態	演習	教員		後期	後期	単位数	1		
授業目的	母性・関ウィメン	とりまく倫理の諸理論について 加産学領域における倫理的問題 ノズヘルスに関する倫理的問題 れに基づきメンバー間でディヘ	夏につい 夏 3 つ	って、事例を通して倫理! について、様々な立場・			ーション行	·う。ま		
到達目標	看護をとりまく倫理の諸理論について、学ぶことができる。 母性・助産学領域における倫理的問題のある事例を通して、助産師・看護師の立場から倫理的問題を考えることができる。 ウィメンズヘルスに関する倫理的問題3つについて、様々な立場・視点からプレゼンテーション行い、看護職としての役割について考えることができる。									
回数				授 業 内 容						
	看護を取り巻く諸倫理について考える 事例 1「障害を持つ子どもの親になる」 事例 2「新出生前診断を受けるべきか」 事例 3「生殖補助医療と出自を知る権利は補償されるか」									
評価	方法	出席(10%)、プレゼンテージ	ンョン	(60%)、討論への参加	(30%)					
	書・ 学文献等									
授業	託式	プレゼンテーション、討論								
	'ィス ワー									
学生へのメッセージ										

授業	科目名	周産期看護学演習	担		年次	2 年次	時間数	30		
授業	美形態	演習	担当教員	喜多 伸幸	前· 後期	前期	単位数	1		
授業目的	国外の 国のシン ついて	oductive health issues in a glob リプロダクティブヘルス・ラィ ステムや文化、宗教などをはじ 考察する。また、これらの諸問 日の姿勢を考察する。	′ツ (Re めとす	eproductive Health & Rigl る諸要因が女性の性とst	生殖に関	する健康や権利	制に与える	影響に		
到達目標	他国との共通点や相違点などを明確にすることができる。 4. (日本人) 助産師・看護師として、国外の女性のリプロダクティブヘルスの向上やライツの保障のために どのように貢献できるのか、自己の姿勢を明確にすることができる。 数									
回数				授 業 内 容						
	主に海外文献を参照しながら、課題についてまとめてプレゼンテーションし、討論する形式ですすめる。 1. Millennium Development Goals(ミレニアム開発目標:MDGs)とリプロダクティブヘルス関連の課題 2000 年、国際社会は 2015 年までに達成すべき開発目標を掲げ、その中で「Improve matenral health」「Promote gender equality and empower women」をはじめ、女性の健康の向上や権利の保障についての課題が取上げられた。15 年間にわたるこれらの目標の達成状況を概観する。 2. Sustainable Development Goals MDGs の 2015 年までの達成状況の評価を踏まえて、更に今後 2030 年までの 15 年間に国際社会が取り組むべき目標が発表された。このうち、女性のリプロダクティブヘルスやライツに関係する目標について考察を深める。 3. 開発途上国における事例を取上げ、討議する(外国語文献)。 4. 先進国における事例を取上げ、討議する(外国語文献)。 5. 学生が任意の 1 カ国を取上げ、女性のリプロダクティブヘルスやライツに与える影響について多角的に考察してプレゼンテーションし、他学生や教員と討議する。									
評価	方法	出席(10%)、クリティーク	能力(4	0%)、プレゼンテーシ	ョン (3	0%)、討論への)参加(20	%)		
	書· 書文献等									
授業	講義、プレゼンテーション、討論 受業形式									
	'ィス ワー									
	Eへの セージ	学生の積極的な参加を求めま	す。							

			ı				ı			
授業	科目名	精神看護学特論	担业		年次	1 年次	時間数	30		
授第	美形態	講義	担当教員	河村 奈美子	前· 後期	前期	単位数	2		
授業目的		護の実践の基礎となる対象理解 えて看護ケアを行うためのアイ								
到達目標	護学の 医療福	における精神看護学の位置づい 実践科学としての方向性を学。 祉の歴史的検証、精神科専門看 を行い、実践活動への示唆を行	ぶ。また ∙護師の	、精神看護学および関	連学問領	[域における研	究動向、精	神保健		
回数				授 業 内 容						
	特論のため他領域の大学院生も受講する可能性があることから、精神看護の実践の基礎となる対象理解を中心に教授する。また、一般病棟において出会う可能性の高い精神疾患とその治療法、加えて看護ケアを行うためのアセスメントの方法について修得する。 【授業計画】 第1回 オリエンテーションと課題の分担 第2回 (精神力動論 ①) 自我の構造と機能、心と意識について第3回 (精神力動論 ②) 自我の構造と機能、心と意識について第4回 (精神力動論 ②) 不安と防御規制について、適応規制について第5回 (精神力動論 ②) 不安と防御規制について、適応規制について第6回 (精神症状と社会機能)様々な症状と社会適応困難第7回 (家族機能のアセスメント)家族機能不全と精神障害第8回 (主な精神疾患の診断と治療)統合失調症・非定型精神病第9回 (主な精神疾患の診断と治療)統合失調症・非定型精神病第10回 (主な精神疾患の診断と治療)を決します。 第11回 (主な精神疾患の診断と治療)を発達障害・パーソナリティ障害・発達障害第11回 (主な精神疾患の診断と治療)ででます。 第12回 (アディクションモデル)パーソナリティ障害への対処方法と臨床におけるケアの特徴第13回 (重ね着症候群:発達障害・精神障害 or 発達障害+パーソナリティ障害)治療や看護の難しさとゴールについて									
	第14 第15		<u>/(1)</u>	まとめ						
評価	i方法	出席率 (30%) および授業 ディスカッションにおける積 る。	内での	課題に対する学習成果の			, ,	, ,		
	教科書・ ディスカッションに関連する資料を、授業の際に適宜提供する。 参考文献についても随時紹介する。 参考文献に									
講義ならびにディスカッションにより授業を行う。 授業形式 社会人学生が多いため、開講日時については話し合いにより柔軟に対応する。										
	/ィス ワー									
	Eへの セージ	気楽に、でも積極的に議論に 電話やメールによる事前連絡			-	相談には適宜な	—- 対応する。			

			T		ı			ı			
授業	科目名	精神看護学演習 A	担当		年次	1年次	時間数	30			
授美	 能	演習	担当教員	河村 奈美子	前· 後期	後期	単位数	1			
授業目的	関する	護において看護師に求められる 知識に基づいたケア提供におい ついて修得する。									
到達目標	精神保健福祉と精神看護の領域におけるさまざまな今日的課題について解説しながら、わが国における看護 実践と研究の課題について探求する。 目標										
回数	***************************************										
	最新の精神医療に関する知識に基づくケア提供の理論的背景として様々な理論について確認し、看護実践における有効性や限界について確認する。 【授業計画】 第1回(精神の健康と看護) こころの健康の維持と看護 第2回(自我機能の評価) 自我機能と看護モデル 第3回(自我機能の評価) 発達段階と自我機能、看護理論の活用 第5回(自我機能の評価) 精神症状と自我機能と看護の介入方法 第6回(精神機能の評価) 精神症状と自我機能と看護の介入方法 第6回(精神機能の評価) MMSEを用いたアセスメント 第7回(セルフケアの評価) オレムアンダーウッド理論を用いたアセスメント 第8回(身体療法と看護) 精神科領域における薬物療法と看護 第9回(身体療法と看護) 身体療法と看護 第10回(精神療法、社会療法と看護) 認知行動療法、SST、その他の精神療法 第11回(精神療法、社会療法と看護) 家族療法 第12回(精神看護における治療的コミュニケーション)コミュニケーション 第13回(精神看護における治療的コミュニケーション) で流分析の理解 第14回(事例の検討) 事例のプレゼンテーションとディスカッション 第15回(事例の検討) 事例のプレゼンテーションとディスカッション										
評価	方法	授業参加態度(50%)と課題に対 断する。	付する耳	取りくみ(プレゼンテー	ション	を含む) (50%)に	こより総合	的に判			
	書・	ディスカッションの教材資料 参考文献についても随時紹介		、授業の実施の際に適り	直提供す	-3。					
授業	講義及びディスカッション形式にて行う。社会人学生が多い場合は、開講日時については話し合 授業形式 いにより柔軟に対応するが、上記の内容と回数に準拠する。										
	7ィス ワー										
_	Eへの セージ	気楽に、でも積極的に議論に 電話やメールによる事前連絡				相談には適宜	対応します	· •			

				T			1	1			
授業	科目名	精神看護学演習 B	担当		年次	2 年次	時間数	30			
授業	美形態	演習	担当教員	河村 奈美子	前· 後期	前期	単位数	1			
授業目的	メント	や自我構造、セルフケアモデ を行い、対象理解できるととも 宣待や認知症患者に対するケテ 修する。	っに、対	象への看護介入につい	て学修す	トる。さらに、身	発達障害の	理解と			
到達目標		護の実践の基礎となるさまざま 実践につながる力を養う。	とな看護	 理論について理解をよ	り深め、	さらにより複雑	推な事例に	対する			
回数				授 業 内 容							
	広義の精神看護について理論的に学習し理論と実践の統合を図る。										
	【授業計画】 第1回 (理論を活用した困難事例に対する対象理解) さまざまな看護モデルの活用による対象理解第2回 (理論を活用した困難事例に対する対象理解) さまざまな看護モデルの活用による対象理解第3回 (地域ケアモデルの理解) ケースマネジメント、ACT第4回 (地域ケアモデルの理解) ケースマネジメント、ACT第5回 (地域ケアモデルの理解) デイケアにおける看護と多職種連携第6回 (地域ケアモデルの理解) デイケアにおける看護と多職種連携第7回 (心理療法) 集団精神療法、集団力動の理解第8回 (心理療法) グループダイナミクス第9回 (虐待、アディクション、DVとその支援) 心理的な影響と支援第10回 (虐待、アディクション、DVとその支援) 心理的な影響と支援第11回 (発達障害 (子どもの特性)の理解とその支援) 発達障害(子どもの特性)の理解とその支援第12回 (発達障害 (子どもの特性)の理解とその支援) 発達障害(子どもの特性)の理解とその支援第13回 (認知症の理解と看護) 認知症を持つ対象者の理解と看護第14回 (認知症の理解と看護) 認知症を持つ対象者の理解と看護第15回 (地域・在宅ケアにおける精神看護) 地域・在宅ケアにおける精神看護										
評価	方法	授業の参加態度(50%)と誤る。	関への	取り組み(プレゼンテ	ーション	/) (50%) にて	に総合的に	判断す			
	数材資料を適宜提供する。 参考文献についても随時紹介する。 考書文献等										
講義とディスカッション形式で進めます。 授業形式 社会人学生が多いため、開講日時については話し合いにより柔軟に対応し、内容は上記の内容な 回数に準拠する。							容と				
オフィス アワー 気楽に、でも積極的に議論に参加するよう心掛けてください。 学生への 電話やメールによる事前連絡の上で日程調整を図ることを前提に、相談には適宜 メッセージ						相談には適宜対	対応します				

授業	科目名	地域看護学 特論	担		年次	1 年次	時間数	30			
授業	美形態	講義	担当教員	伊藤 美樹子	前· 後期	前期	単位数	2			
授業目的	した。オ	会構造の変化に伴い人々を取り は講座では、経済格差の広がる を保障する上で必要な能力の	現代に	おいて公衆衛生の専門職							
到達目標)社会的な構築や健康の社会的 近生に関わる現象や課題につい					を理解する	0			
回数				授 業 内 容							
	第第第第第第第第第第第第第第第第第第12回回回回回回回回回回回回回回回回回回回	回: ガイダンス 回: 公衆衛生の原理原則の確認 回: 健康の社会的構築 1 回: 健康の社会的構築 2 回: 健康の社会的決定要因 2 回: 健康の不平等(健康格差) 1 回: 健康の不平等(健康格差) 2 回: 健康問題や現象の解釈の視点 (Critical perspectives) 1 回: 健康問題や現象の解釈の視点 (Critical perspectives) 2 回: 研究の対象とする現象の再定義 1 回: 研究の対象とする現象の再定義 2 回: プレゼンテーションと評価 1 回: プレゼンテーションと評価 2 回: まとめ									
評価	方法	討議への参加、プレゼンテー	ション	、課題レポートを総合し	て評価	i					
教科 参考書	書:										
授業	形式	文献を読み討議を行います。									
	ィスフー										
	たへのセージ										

授業	科目名	地域看護学 I 演習 A	担当		年次	1 年次	時間数	30				
授第	 能	演習	担当教員	輿水 めぐみ	前· 後期	後期	単位数	1				
授業目的		生看護領域の国内外の文献を伝 論を探る。	本系的に	整理・分析することを注	通して、	自らの研究に近	適した研究	テーマ				
到達目標		生看護領域における対象とその 生看護研究および実践への適用			法につい	いて、系統的に	文献検討を	を行い、				
回数		授業内容										
	公衆衛生看護に関連した論文を講読し、プレゼンテーションを通して討論する。 1) 公衆衛生看護の対象特性やニーズの特徴を明らかにした論文 2) 公衆衛生看護の実践方法の解明や開発に関する論文 3) 地域ケア体制の構築に関する論文											
評価	方法	プレゼンテーション(50%)、	討論への	の参加度(50%)により総	合的に	評価する。						
	書・											
授業	態形式	ゼミナール										
	7ィス ワー											
	Eへの セージ	履修を希望する学生は、受講 相談等は適宜対応いたします				 `ントをとって^	ください。					

授業	 科目名	■ 地域看護学 演習 B	+ □		年次		時間数	30			
授第	美形態	演習	担当教員	伊藤 美樹子	前· 後期	2年次前期	単位数	1			
授業目的	対象と7 ぶ。	I なる人々が健康課題に対して、	知識の	 習得と理解・態度の変容	L 容・行動	の変容を獲得す	するプロセ	スを学			
到達目標	2) 保健	衛生における健康教育と保健 行動・ヘルスプロモーション 教育のアプローチについて理	に関す	る基礎理論を理解できる	7 .						
回数				授 業 内 容							
	 健康教育の理念 知識の普及と態度および行動変容 健康の自己管理能力に関する理論 健康教育の方法とその評価 ヘルスプロモーションと社会的支援 コミュニティオーガナイゼーション 										
評価	5方法	成績は出席、授業への参加度	こ レポ	ートをもとに総合的に言	平価する	0 0					
教科	書・	参考図書を必要時提示します	- 0								
参考書	文献等										
授業	講義と演習 授業形式										
	'ィス ワー										
	Eへの セージ	積極的に議論に参加をしてく 相談等適宜対応しますが、事			— <u></u> 整をお願	 いします。					

_											
授業	科目名	地域看護学Ⅱ演習 B	担当		年次	2 年次	時間数	30			
授業	美形態	演習	担当教員	注村 真由子 	前・後期	前期	単位数	1			
授業目的		護実践に関連する諸理論を用い 展開するための方法論について			・集団の	健康課題に対す	する効果的	な保健			
到達目標											
回数				授 業 内 容							
	前半:国内外の行政看護活動関連の文献のクリティークを行う。 後半:修士論文の研究テーマ或いは学生の関心あるテーマにあわせて対象を選定し、その対象が抱える健康 課題に対する地域看護実践のあり方について検討する。										
評価	方法	出席状況、プレゼンテーショ	ンおよ	び討論への参加度、演習	望のレナ	%− ⊦					
3211	教科書・ 満習の中で適宜紹介する。 考書文献等										
授業	授業は、担当学生のプレゼンテーションの後、学生全員で討論する。 授業形式										
オフィス アワー											
	Eへの セージ	事前学習や課題学習および論する。授業相談については、 る。									

授業	科目名	看護管理特論	担当		年次	1 年次	時間数	30	
授業	 能	講義	担当教員		前· 後期	前期	単位数	1	
授業目的		進む医療システムの中で、看譲 する諸理論や概念を理解し、₹					ために、看	護管理	
到達目標	2. 看記3. 看記	護管理に必要な知識体系につい 護管理に関連する理論とその発 護管理の現状とその課題につい 護管理に関連した研究テーマに	発展過程 ヽて理解	呈について理解する。 军する。					
回数				授 業 内 容					
	第1回 ガイダンス 看護管理学の概説 第2回 看護組織管理論 第3回 グループマネジメント 第4回 人的資源活用論 第5回 職業性ストレスマネジメント 第6回 人間関係管理論 第7回 労務管理(1) 第8回 労務管理(2) 第9回 看護管理に関する研究の動向 第10回 制度・政策に関する研究 第11回 看護サービス提供論 第12回 看護活動と医療経営 第13回 プレゼンテーション 第14回 プレゼンテーション 第15回 プレゼンテーション・まとめ								
評価	方法	プレゼンテーション(50%)、	討議~	への参加状況(50%)に	より評	価する。			
教科	書・	適宜指示します。							
参考書	学文献等								
授業	手形式	院生によるプレゼンテーショ	ンと討	議形式で行う。					
	'ィス ワー								
	Eへの セージ								

		1					l		1	
授業	科目名	看護管理演習丨	担当				年次	1 年次	時間数	30
授第	美形態	演習	担当教員				前・後期	後期	単位数	1
授業目的		理に関連した国内外の文献を駅 研究計画書の作成をめざす。	構読し、	看護管理	の専門	的な知言	載を深 <i>ぬ</i>	うるとともに、E	自己の研究	課題を
到達目標	2. 各3. 各	自の研究課題に関連した国内外自の研究課題に関連した研究 自の研究課題に関連した研究 自の研究課題の研究デザインが 自の研究課題の研究デザインが	≦法につ ≦法の倫	いて説明 a理的問題	できる) 0				
回数	授 業 内 容									
	第1回 ガイダンス 看護管理領域の研究 第2回 看護管理関連論文検討(2) 第4回 看護管理関連論文検討(3) 第5回 看護管理関連論文検討(4) 第6回 看護管理関連論文検討(5) 第7回 看護管理関連論文検討(6) 第8回 看護管理関連論文検討(7) 第9回 看護管理関連論文検討(8) 第10回 看護管理関連論文検討(9) 第11回 看護管理関連論文検討(10) 第12回 課題探究と研究計画立案(1) 第13回 課題探究と研究計画立案(2) 第14回 課題探究と研究計画立案(3) 第15回 まとめ									
評価	方法	プレゼンテーション(50%)、討議	養の参加物		5 0 %)	により	評価する。		
	書· 学文献等									
授業	託式	院生によるプレゼンテーショ	ンと討	議形式で	 行う。					
	'ィス ワー									
	Eへの セージ									

					1					
授業	科目名	看護管理演習॥	担当		年次	2 年次	時間数	30		
授業	美形態	演習	担当教員		後期	前期	単位数	1		
授業目的		理論に関連した諸理論や方法諸 を明確にする。	論の学習	習を深め、看護管理的課	題探究の	の基盤を作ると	ともに、自	己の研		
到達目標	2. 各 3. 各 4. 各	自の研究テーマの意義を明確に 自の研究デザインを多面的にを 自の研究に関連したデータの収 自の研究に関連したデータの割 自の研究に関連した論文のまと	を討でき X集方法 Mと理・分	。 ₹る。 kを検討できる。 }析を行うことができる	0					
回数				授 業 内 容						
	第第第第第第第第第第第第第第第第第112回回回回回回回回回回回回回回回回回回回	回 ガイダンス 理論の適用、概念の明確化 回 研究デザインの多面的分析 回 研究計画の立案と検討(1)データの収集方法の検討 回 研究計画の立案と検討(2)データの収集方法の検討 回 研究計画の立案と検討(3)データの収集方法の検討 回 研究計画の立案と検討(4)分析方法の検討 回 研究計画の立案と検討(5)分析方法の検討 回 研究計画の立案と検討(6)分析方法の検討 回 研究計画の立案と検討(7)分析方法の検討 ロ 研究計画の立案と検討(8)分析方法の検討 1 回 研究計画書(発表・検討)(1) 2 回 研究計画書(発表・検討)(2) 3 回 研究計画書(発表・検討)(3) 4 回 研究計画書(発表・検討)(4) 5 回 まとめ								
評価	方法	プレゼンテーション(50%)、討[義への参加状況(50%	á) によ	り評価する。				
	書・									
院生によるプレゼンテーションと討議形式で行う。 授業形式										
	'ィス フー									
	<u>に</u> への セージ									

授業	科目名	呼吸管理学実習丨	担		年次	1~2年次	時間数	30			
授業	美形態	実習	担当教員	北川裕利	前· 後期	通年期	単位数	1			
授業目的	必要な知	- 呆に必要となる看護技術、経口 知識、判断、確実な手技を習得べきかを総合的に判断する能力	引し、実	践する。また、関係法規							
到達目標	6)対象の状況から看護師が包括的指示で実施可能な範囲を見極め、応用、実践できる。										
回数		授業内容									
	・気道確保に関する局所解剖 ・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関する病態生理、フィジカルアセスメント ・気管挿管の目的、適応と禁忌、デバイスの種類と適応、呼吸管理法 ・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の目的、適応と禁忌、位置調整に伴うリスク(有害事象とその対策等)、位置調整の手技 ・関係法規と手順書改良のプロセス ・看護技術として行う意義と安全管理体制 ※呼吸器(気道確保に係るもの)管理関連 ・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整										
評価	方法	筆記試験、客観的臨床能力試り組む姿勢など)を加味し、			その他	2(提出物、出席	茅状況、授	業に取			
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	書· 主 文献等	【参考文献】 周術期管理チームテキスト(プロシージャーズ・コンサル					ャパン株式	さい はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はい			
授業	形式	一部 e-learning あり。 筆記試験、客観的臨床能力試	合格後に実習となる。所属施設での実習。								
	'ィス ワー										
	Eへの セージ	高度実践コース(特定行為領	域)の	院生を対象とする。							

授業	科目名	呼吸管理学実習॥	担当		年次	1~2年次	時間数	120			
授第	Ě形態	実習	担当教員	北川 裕利	前· 後期	通年	単位数	4			
授業目的		吸療法(侵襲的・非侵襲的陽日 必要な知識、判断、技術を習作			離脱)の	調整を特定行為	らとして安	全に行			
到達目標	5)手技を安全安楽に実施できる。 6)対象の状況から看護師が包括的指示で実施可能な範囲を見極め、応用、実践できる。										
回数				授 業 内 容							
	・人工呼吸療法に関する局所解剖 ・人工呼吸療法の目的、適応と禁忌、 ・主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント ・人工呼吸器管理の適応と禁忌 ・人工呼吸器のメカニズム・種類・特徴 ・調整に伴うリスク、有害事象発生時の対応 ・関係法規と手順書改良のプロセス ・人工呼吸療法中の看護ケア ・看護技術として行う意義と安全管理体制 ※呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)管理関連 ・侵襲的陽圧換気の設定の変更 ・非侵襲的陽圧換気の設定の変更 ・大工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整 ・人工呼吸器からの離脱										
評価	方法	筆記試験、実習の観察評価を 味し、総合的に評価します。	重視し	、その他(提出物、出席		授業に取り組む	分姿勢など)を加			
【参考文献】 ICU 実践ハンドブック一病態ごとの治療・管理の進め方 羊土社 (2009) ウエスト呼吸生理学入門:正常肺編 第 2 版 メディカルサイエンスインターナショナル JOI B.WEST,訳) 桑平一郎 (2017) ウエスト呼吸生理学入門:肺疾患編 メディカルサイエンスインターナショナル JOHIN B.WE 訳) 堀江孝至 (2009) 参考書文献等 を考書文献等 を考書文献等 のスとカクマレックの THE 人工呼吸ブック 第 2 版 メディカルサイエンスインターナショラ Dean R Hess, 訳) 田中竜馬ら (2015) レジデントのためのやさしい胸部画像教室[ベストティーチャーに教わる胸部 X 線の読み方考え長尾大志 日本医事新報社 (2014) 人工呼吸療法における 30 の謎 安本 和正 小谷 透 克誠堂出版 (2008)							s.WEST, ョナル				
授業	熊式	一部 e-learning あり。 筆記試験に合格後に実習とな	る。所	属施設での実習。							
	7ィス ワー										
学生	<u>-</u> への	高度実践コース(特定行為領	域)の	院生を対象とする。							
メッ-	セージ										

授業	科目名	呼吸管理学実習Ⅲ	担当		年次	1~2年次	時間数	30	
授業	美形態	実習	担当教員	北川裕利	前· 後期	通年期	単位数	1	
授業目的	の方法	吸療法に必要となる看護技術、 を修得する。また、実施に伴う が診療の補助において実施すべ る。	リスク	の予測と対処法を修	5得する。 🖟	関係法規を理解	し、専門職	として	
到達目標	(a) 気官ガニューレの交換の困難例の種類とその対応について説明できる。 7) 気管カニューレ交換の手技を安全安楽に実施できる。 8) 対象の状況から看護師が包括的指示で実施可能な範囲を見極め、応用、実践できる。 数 授業内容								
回数				授 業 内 容					
	・気管切開に関する局所解剖、病態生理 ・主要疾患のフィジカルアセスメント ・気管切開の目的、適応と禁忌、 ・気管切開に伴うリスク(有害事象とその対策) ・気管カニューレの適応と禁忌、気管カニューレの構造と選択、安全な交換手技 ・気管カニューレの交換の困難例の種類とその対応 ・気管カニューレ留置中の看護ケア ・関係法規と手順書改良のプロセス ※呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連 ・気管カニューレの交換								
評価	方法	筆記試験、客観的臨床能力試り組む姿勢など)を加味し、			.し、その他	也(提出物、出原		業に取	
	書・								
授業	一部 e-learning あり。 業形式 筆記試験、客観的臨床能力試験に合格後に実習となる。所属施設での実習。								
	'ィス フー	tokutei@belle.shiga-med.ac.jp	(077-548-3573					
	高度実践コース(特定行為領域)の院生を対象とする。 生への ツセージ								

授業	科目名	循環管理学実習丨	担业		年次	1~2年次	時間数	9 0
授業	美形態	実習	担当教員	北川裕利	前· 後期	通年	単位数	W
授業目的		・ペースメーカー操作と管理、同 グ離脱時の補助の頻度調整を特 践する。						
到達目標	Evidence Based Medicine (EBM) に基づき、 1) 動脈血液ガス分析が必要な病態を理解できる。 2) 対象の病状と動脈血液ガスデータを解釈し、リスクの再評価や実施した特定行為の評価を踏まえた報告ができる。 3) 直接動脈穿刺法による動脈血液採血を安全安楽に実施できる。 4) 橈骨動脈ラインの確保を安全安楽に実施できる。 5) 対象の状況から看護師が包括的指示で実施可能な範囲を見極め、応用、実践できる。							
回数				授 業 内 容				
	・動脈血液ガス分析が必要な主要疾患、病態生理 ・動脈穿刺法に関する局所解剖、フィジカルアセスメント ・超音波検査による基本的知識、操作方法 ・動脈血採取が必要となる検査 ・安全な直接動脈穿刺法と 橈骨動脈ラインの確保の手技 ・動脈穿刺法によるリスクと合併症 ・動脈ライン確保中の看護ケア ・関係法規と手順書改良のプロセス ※動脈血液ガス分析関連 ・直接動脈穿刺法による採血 ・橈骨動脈ラインの確保							
評価	方法	筆記試験、客観的臨床能力試 り組む姿勢など)を加味し、			その他	2(提出物、出席		業に取
教科参考書	書・							
授業	一部 e-learning あり。 授業形式 筆記試験、客観的臨床能力試験に合格後に実習となる。所属施設での実習。							
オフィス アワー								
	高度実践コース(特定行為領域)の院生を対象とする。 学生への メッセージ							

授業	科目名	循環管理学実習	担当	11.11. 10.71	年次	1~2年次	時間数	6 0	
授業	美形態	実習	担当教員	北川裕利	前· 後期	通年期	単位数	2	
授業目的		・ 脈穿刺法による採血や橈骨動脈 実な手技を習得し、実践する。					こ必要な知	識、判	
到達目標	Evidence Based Medicine (EBM) に基づき、 1) 動脈血液ガス分析が必要な病態を理解できる。 2) 対象の病状と動脈血液ガスデータを解釈し、リスクの再評価や実施した特定行為の評価を踏まえた報告ができる。 3) 直接動脈穿刺法による動脈血液採血を安全安楽に実施できる。 4) 橈骨動脈ラインの確保を安全安楽に実施できる。 5) 対象の状況から看護師が包括的指示で実施可能な範囲を見極め、応用、実践できる。								
回数				授 業 内 容					
	・動脈血液ガス分析が必要な主要疾患、病態生理 ・動脈穿刺法に関する局所解剖、フィジカルアセスメント ・超音波検査による基本的知識、操作方法 ・動脈血採取が必要となる検査 ・安全な直接動脈穿刺法と 橈骨動脈ラインの確保の手技 ・動脈穿刺法によるリスクと合併症 ・動脈ライン確保中の看護ケア ・関係法規と手順書改良のプロセス ※動脈血液ガス分析関連 ・直接動脈穿刺法による採血 ・橈骨動脈ラインの確保								
評価	i方法	筆記試験、客観的臨床能力試り組む姿勢など)を加味し、			その他	2(提出物、出席	常状況、授	業に取	
教科参考書	書・								
授業	一部 e-learning あり。 受業形式 筆記試験、客観的臨床能力試験に合格後に実習となる。所属施設での実習。								
	イス フー	tokutei@bell.shiga-med.ac.jp 077-548-3573							
	高度実践コース(特定行為領域)の院生を対象とする。 全生への ッセージ								

授業	科目名	循環管理学実習=	担业		年次	1~2年次	時間数	6 0
授業	美形態	実習	担当教員	北川 裕利	前· 後期	通年期	単位数	2
授業目的		・ 変浄化療法中の患者管理や血液 新、技術を習得し、実践する。		器の操作などを特定行為	みとして	安全安楽に行う	うために必	要な知
到達目標								
回数				授 業 内 容				
	※ 透析官	管理関連						
評価	方法	筆記試験、実習の観察評価を 勢など)を加味し、総合的に			常状況、	演習などでの招	受業に取り	組む姿
	書・							
授業	形式	一部 e-learning あり。 筆記試験に合格後に実習とな	:る。					
	・ フー							
	たへのセージ							

授業	科目名	循環管理学実習Ⅳ	担当		年次	1~2年次	時間数	120		
授美	 能	実習	担当教員	北川裕利	前· 後期	通年	単位数	4		
授業目的	カリウ. 断やその 門職と	■ 理に必要となる看護技術、特定 ム又はクロール、降圧剤、糖質 の調整方法を修得する。また、 して看護師が診療の補助におい 末で実践する。	質輸液又 実施に	(は電解質輸液、利尿剤) 伴うリスクの予測と対象) の投与 処法を値	5量の調整に必要 多得する。関係》	要な知識・ 去規を理解	臨床判 とし、専		
到達目標	Evidence Based Medicine (EBM) に基づき 1) 循環動態作用薬が必要となる必要な主要疾患の病態生理を説明できる。 2) 循環動態作動薬(カテコラミン、ナトリウム、カリウム又はクロール、降圧剤、糖質輸液又は電解質輸液、利尿剤)の薬理作用を説明できる。 3) 循環作動薬の投与量の調整に必要なフィジカルアセスメントを実践できる。 4) 対象の状況から看護師が包括的指示で実施可能な範囲を見極め、応用、実践できる。									
回数										
	・循環動態に作用する薬物療法が必要となる主要疾患の症状と病態生理、検査、診断基準、治療、フィジカルアセスメント ・循環動態作動薬(カテコラミン、ナトリウム、カリウム又はクロール、降圧剤、糖質輸液又は電解質輸液、利尿剤)の投与量の調整とその方法									
評価	方法	筆記試験、実習の観察評価を 勢など)を加味し、総合的に			常状況、	演習などでの搭	受業に取り	組む姿		
	書· 書文献等									
授業	一部 e-learning あり。 筆記試験に合格後に実習となる。									
オフィス tokutei@bell.shiga-med.ac.jp 077-548-3573										
	高度実践コース(特定行為領域)の院生を対象とする。 学生への メッセージ									

授業	科目名	外科管理学実習丨	担		年次	1 0 /= ½	時間数	6 0		
授第	美形態	実習	担当教員	北川 裕利	前· 後期	1~2年次 通年	単位数	2		
授業目的		レーン挿入中の患者管理や低月 て安全安楽に行うために必要な					ーン抜去を	特定行		
到達目標	Evidence Based Medicine (EBM) に基づき 1) 対象の治療方針を理解し、胸腔ドレーンの管理ができる。 2) 手順書により、身体所見及び検査結果等が指示された病状の範囲にあることを確認し、安全安楽に腹腔ドレーンの抜去ができる。 3) 対象の病状にあった吸引圧の設定と変更ができる。 4) 抜去に必要な抜糸、縫合又は結紮閉鎖などの外科的基本手技ができる。 5) 対象の状況から看護師が包括的指示で実施可能な範囲を見極め、応用、実践できる。 6) 手順書案を作成し、再評価、修正できる。									
回数				授 業 内 容						
	 ・胸腔ドレナージに関する局所解剖、主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント ・胸腔ドレナージの目的、適応と禁忌、ドレナージに伴うリスク(有害事象とその対策等) ・腹腔ドレーンの抜去の適応と禁忌、ドレーン抜去に伴うリスク(有害事象とその対策等)、安全な抜去の方法と手技 ・低圧胸腔内持続吸引の適応と禁忌、持続吸引に伴うリスク(有害事象とその対策等) ・低圧胸腔内持続吸引器の構造、吸引圧の設定及びその変更方法 ※胸腔ドレーン管理関連 ・低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及びその変更 ・胸腔ドレーンの抜去 									
評価	方法	筆記試験、実習の観察評価を ど、)を加味し、総合的に評価			常状況、	演習など授業に	こ取り組む	姿勢な		
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	書・ 主・ 文献等	資料は配布する。								
授業	一部 e-learning あり。 筆記試験に合格後に実習となる。									
	tokutei@bell.shiga-med.ac.jp 077-548-3573									
	高度実践コース (特定行為領域) の院生を対象とする。 生への ソセージ									

授業	科目名	外科管理学実習Ⅳ	担业		年次	1~2年次	時間数	6 0
授業	美形態	実習	担当教員	北川裕利	前· 後期	通年期	単位数	2
授業目的		ー レーン挿入中の患者管理や心룋 手技を習得し、実践する。	憂ドレー	- -ン抜去を特定行為とし	て安全に	こ行うために必	要な知識、	判断、
到達目標								
回数				授 業 内 容				
		ドレーン管理関連						
評価	方法	筆記試験、実習の観察評価をど、)を加味し、総合的に評価			常状況、	演習など授業に	こ取り組む	姿勢な
教科	書・							
参考書	文献等							
授業	形式	一部 e-learning あり。 筆記試験に合格後に実習とな 所属施設での実習。	る。					
	'ィス ワー							
	Eへの セージ							

授業	受業科目名	栄養管理学実習丨	担业		年次	1~2年次	時間数	6 0	
授弟	美形態	実習	担当教員	佐々木 雅也	後期	通年期	単位数	2	
授業目的	各種糖質 各種糖質	低血糖の病態について学ぶ。 質輸液、電解質輸液の種類と特質輸液、電解質輸液の適応と低ないた糖質輸液、電解質輸液の	 東用方法	ほについて学ぶ。					
到達目標	高血糖、低血糖の病態を正しく理解し、血糖コントロールを適切におこなうために必要な臨床判断力や実践力を身につける。また、血糖管理における合併症と看護ケアに関する知識とスキルを習得する。 授業内容								
回数				授 業 内 容					
	高血糖、低血糖の病態。 各種糖質輸液、電解質輸液の種類と特徴 各種糖質輸液、電解質輸液の適応と使用方法 病態に応じた糖質輸液、電解質輸液の調整方法 糖質輸液、電解質輸液の合併症と対策								
評価	方法	筆記試験、レポートなど							
	書・								
授業	熊式	スクリーニングによる講義と	実習。						
	7ィス ワー				2				
	モへのセージ	静脈栄養、経腸栄養における し、対応できる知識とスキル			や低血糖	は重要です。症	対態を正し	く理解	

授業	科目名	栄養管理学実習॥	担当		年次	1~2年次	時間数	9 0		
授業	美形態	実習	担当教員	佐々木雅也	前· 後期	通年	単位数	3		
授業目的	・胃ろう・胃 ・胃胃の・胃 ・胃の・胃 ・胃の・胃 ・胃の・胃 ・胃の・胃 ・胃の・胃・胃の・胃・腫・腫・腫・腫・腫・腫・腫・腫・腫・腫・腫・腫・腫・腫・腫	芯と禁忌	る患者の る患者の 腸ろう)病態生理。)フィジカルアセスメン i カテーテル、膀胱ろう		テルの種類と特	徵			
到達目標	・ 胃 胃 胃 胃 胃 胃 胃 る ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ	う、腸ろう、膀胱ろうの交換に う、腸ろう、膀胱ろうを有する う、腸ろう、膀胱ろうを有する う、腸ろう、膀胱ろうの交換の う、腸ろう、膀胱ろうの交換の う、腸ろう、膀胱ろうの交換の う、腸ろう、膀胱ろうの交換の	る患者の る患者の り目的に り適応と に伴うし	O病態整理が理解できる。 Oフィジカルアセスメンこついて理解できる。 ご禁忌について理解でき Jスクについて理解でき	- 。 トが実が る。	奄できる。				
回数	授 業 内 容									
	が実施 ⁻	C C W 0								
評価	方法	筆記試験、OSCE、実習の観 る。	察評価を	を重視し、出席状況やレ	ポート	なども加味して	て総合的に	評価す		
	書· 主 文献等	スクリーニングによる講義、	実習。							
授業形式										
	'ィス ワー									
胃瘻や腸瘻管理は、経腸栄養管理において重要です。是非、基本的な知識とスキルを習得し 学生への だきたい。 メッセージ							いを習得し	ていた		

授業	科目名	栄養管理学実習Ⅲ	担		年次	1~2年次	時間数	30		
授第	羊形態	実習	担当教員	佐々木 雅也	前· 後期	通年	単位数	1		
授業目的	中心静脈ことがつ	ー 派カテーテルを用いた栄養管理 できる。	里に必要	■な知識と技術を理解 ■な知識と技術を理解	し、患者に	対し安全に特別	I 定行為を実	施する		
到達目標	・中心静脈栄養に関する合併症と対策について理解する。									
回数				授 業 内 容						
	・中心静脈カテーテル管理に関する局所解剖。 ・中心静脈カテーテルを有する患者の病態生理。 ・中心静脈カテーテルを有する患者のフィジカルアセスメント ・中心静脈カテーテルの種類と特徴 ・中心静脈カテーテル挿入と抜去の手技について ・中心静脈栄養の適応と禁忌について ・中心静脈栄養の合併症と対策について									
評価	方法	筆記試験、OSCE、実習の観響 る。	察評価を	を重視し、出席状況や	アレポート	なども加味して	て総合的に	評価す		
	書· 書文献等									
授業	態形式	スクリーニングによる講義と	実習。	筆記試験を実施する。						
	7ィス ワー									
	中心静脈カテーテルの管理に関する知識とスキルを習得していただきたい。また中心静脈栄養 学生への 適応と禁忌、方法、合併症と対策について、詳しく学んでいただきたい。 メッセージ							養法の		

		T	ı	1			T	I	
授業	科目名	栄養管理学実習V	担当		年次	1~2年次	時間数	9 0	
授業	美形態	実習	担当教員	佐々木雅也	前· 後期	通年期	単位数	3	
授業目的	・手順書	・水分管理に係る薬剤投与に必 書に基づき、特定行為の対象と 与量の調整、脱水症状に対する	なる患	者の病態の範囲から、息	患者に妄		中の高カロ	リー輸	
到達目標	・朊水症人の患者に対して、女主に制液による怖止かできる。								
回数				授 業 内 容					
	・輸液療法の管理 局所解剖、フィジカルアセスメント、輸液療法の種類と特徴など ・高カロリー輸液の調整 低栄養状態の病態生理、フィジカルアセスメントなど ・脱水症状に対する輸液の補正 病態生理、フィジカルアセスメントなど								
評価	方法	筆記試験、実習の観察評価を	重視し	、レポートや出席状況な	なども加	1味して総合的に	こ評価する	0	
	書・								
授業	e-ラーニングによる講師、およびスクリーニングによる講義と実習。 受業形式								
	オフィス アワー								
	,	輸液による水分管理の基礎に	ついて	学んで頂きたい。					
	学生への ×ッセージ								

授業	科目名	感染管理学実習	担		年次	1~2年次	時間数	9 0
授業	美形態	実習	担当教員	北川裕利	前· 後期	通年	単位数	3
授業目的		- 理と治療の基本を学び、感染徴めに必要な知識、判断、技術を			品時投 <i>与</i>	- -を特定行為とし	ンてタイム	リーに
到達目標								
回数				授 業 内 容				
	水松木	に係る薬剤投与関連						
評価	方法	筆記試験、実習の観察評価を ど、)を加味し、総合的に評価			常状況、	演習など授業は	こ取り組む	姿勢な
	書・							
	形式	一部 e-learning あり。 筆記試験に合格後に実習とな 所属施設での実習。	:る。					
	'ィス ワー							
	<u>E</u> への セージ							

				-		T					
授業	科目名	精神疾患管理学実習	担当		年次	1~2年次	時間数	6 0			
授美	 半形態	実習	担当教員	北川裕利	前· 後期	通年	単位数	2			
授業目的		」 び神経薬(抗けいれん薬、抗料 習得し、実践する。	青神薬、	抗不安薬)の臨時投与	を適切れ	な判断により行	なうために	二知識、			
到達目標	4) 対象の状況から有護師が包括的指示で美施可能な軋曲を見極め、応用、美銭できる。 5) 手順書案を作成し、再評価、修正できる。										
回数	授 業 内 容										
	・精神・神経系の局所解剖 ・神経学的、精神医学的主要症候 ・主要な精神疾患、神経疾患の病態生理、フィジカルアセスメント、面接所見 ・神経学的検査、心理・精神機能検査 ・精神・神経系の臨床薬理(副作用、耐性と依存性を含む)										
評価	五方法	筆記試験、実習の観察評価を 味し、総合的に評価します。	重視し	、その他(提出物、出席	常状況、	授業に取り組む	か姿勢など)を加			
教科	書・										
	書文献等										
一部 e-learning あり。 筆記試験に合格後に実習となる。 所属施設での実習。											
	7ィス ワー	tokutei@bell.shiga-med.ac.jp 077-548-3573									
	Eへの セージ	高度実践コース(特定行為領	域) の	院生を対象とする。							

				1		T	T	T		
授業	科目名	疼痛管理学実習	担当		年次	1~2年次	時間数	6 0		
授第	羊形態	実習	担当教員	北川裕利	前· 後期	通年期	単位数	2		
授業目的		- 痛管理の基本を学ぶ。特に手術 確実な鎮痛処置を行うための知				の使用であるこ	とを強く意	意識し、		
到達目標	2)調 3)病 4)硬 きる。	膜外麻酔の作用秩序と特徴にご整の判断に必要なフィジカルラ態に応じた硬膜外麻酔薬の選択 関外麻酔に伴うリスク(有害事順書案を作成し、再評価、修正	7セスメ Rと投与 事象とそ	シトができる。 量の調整を安全に実践の対策等)を理解し、			異常時の対	応がで		
回数	授 業 内 容									
	・術後疼痛管理の総論 ・硬膜外麻酔に関する局所解剖、作用機序と特徴 ・硬膜外麻酔を必要とする主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント ・硬膜外麻酔の適応と禁忌 ・硬膜外麻酔薬の選択と投与量の調整の判断基準									
評価	方法	筆記試験、実習の観察評価を 味し、総合的に評価します。	重視し	、その他(提出物、出席	常状況、	授業に取り組む	か姿勢など)を加		
	書・									
授業	一部 e-learning あり。 筆記試験に合格後に実習となる。 所属施設での実習。									
	'ィス ワー	tokutei@bell.shiga-med.ac.jp 077-548-3573								
, ,	セージ	高度実践コース(特定行為領	域 の	院生を対象とする。						

授業	科目名	スキルズラボ演習I	担当		年次	1~2年次	時間数	6 0		
授第	 能	演習	担当教員	北川 裕利	前· 後期	通年	単位数	2		
授業目的	画教材を	- 看護実践(特定行為)を行うの を使用したトレーニングを行う 対処法を習得する。								
到達目標	2)安全	の思考プロセスを学び、看護 全に配慮した手順で特定行為を 身の臨床的思考過程を整理し、	と実践で	ごきる。						
回数										
	呼吸器 (気道確保) 関連 呼吸器 (人工呼吸療法) 関連 循環器関連 胸腔ドレーン管理関連 腹腔ドレーン管理関連 ろう孔管理関連 栄養に係るカテーテル管理 (中心静脈カテーテル管理) 関連 栄養に係るカテーテル管理 (末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理) 関連 創傷管理関連 創部ドレーン管理関連 動脈血液ガス分析関連 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連									
評価	方法	トレーニングへの取り組み、	討論へ	の参加度、成果物、出席	ま状況に	より評価します	† .			
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	計書・ 書文献等									
授業	看護師特定行為研修センター演習室で実施する。 授業形式									
	7ィス ワー	tokutei@bell.shiga-med.ac.jp 077-548-3573								
	モへのセージ	高度実践コース(特定行為領	域)の	院生を対象とする。						

		1	Ι	4						
授業	科目名	スキルズラボ演習	担当	11.11. 10.51	年次	1~2年次	時間数	6 0		
授美	業形態	演習	担当教員	北川裕利	前· 後期	通年期	単位数	2		
授業目的	ために、	看護実践(特定行為)において 外科的基本手技やデバイスの ングを行う。								
到達目標	2)安全	の思考プロセスを学び、看護 全に配慮した手順で特定行為を 身の臨床的思考過程を整理し、	を安楽に	実践できる。			、展開で	きる。		
回数	授 業 内 容									
	呼吸器(気道確保)関連 呼吸器(長期呼吸療法)関連 循環器関連 胸腔ドレーン管理関連 腹腔ドレーン管理関連 ろう孔管理関連 栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連 創傷管理関連 創部ドレーン管理関連 動脈血液ガス分析関連									
評価	方法	トレーニングへの取り組み、	討論へ	の参加度、成果物、出席	ま状況に	より評価します	.			
	書・書文献等									
看護師特定行為研修センター演習室、附属病院内スキルズラボにて実施する。 授業形式										
	7ィス ワー	tokutei@bell.shiga-med.ac.jp 077-548-3573								
高度実践コース(特定行為領域)の院生を対象とす 学生への メッセージ										

授業	科目名	看護実践演習 (特定行為実践)	担当	기기 가장되	年次	1~2年次	時間数	180		
授美	業形態	演習	担当教員	北川裕利	後期	通年	単位数	6		
授業目的	討やロ・ 動計画	・ 為実践に必要な基本的技術(身 ールプレイにより習得する。ま の立案と基盤整備のためのフィ プレゼンテーションを行う。	きた、実	践フィールドを看護管理	里の視点	東から分析し、特	寺定行為実	践の活		
到達目標	2)特:	定行為に必要な基本的技術(B 定行為の実践に必要な組織マネ 定行為を実践する上での課題を	ネジメン	/ 卜遂行能力や環境調整	能力を具)を実践で	ごきる。		
回数	授 業 内 容									
	組織分析、問題解決技法を用いた特定行為実践の活動計画、グループワークやクループディスカッションにより改良を加え、成果を発表する。									
評価	五方法	課題への取り組み、討論への	参加度	、成果物、出席状況に。	より総合	かに評価します	† .			
	書・	診察と手技が見える Vol.1 🦠	第2版	メディックメディア	2015					
授業形式										
	7ィス ワー	tokutei@bell.shiga-med.ac.jp 077-548-3573								
	学生への メッセージ									

授業	科目名	看護管理特論	担当教員		年次 前・	1 年次	時間数	30	
授業	 能	講義	教員		後期	前期	単位数	1	
授業目的		進む医療システムの中で、看譲 する諸理論や概念を理解し、₹					ために、看	護管理	
到達目標	2. 看記3. 看記	護管理に必要な知識体系につい 護管理に関連する理論とその発 護管理の現状とその課題につい 護管理に関連した研究テーマに	発展過程 ヽて理解	呈について理解する。 军する。					
回数				授 業 内 容					
	第1回 ガイダンス 看護管理学の概説 第2回 看護組織管理論 第3回 グループマネジメント 第4回 人的資源活用論 第5回 職業性ストレスマネジメント 第6回 人間関係管理論 第7回 労務管理(1) 第8回 労務管理(2) 第9回 看護管理に関する研究の動向 第10回 制度・政策に関する研究 第11回 看護サービス提供論 第12回 看護活動と医療経営 第13回 プレゼンテーション 第14回 プレゼンテーション 第15回 プレゼンテーション・まとめ								
評価	方法	プレゼンテーション(50%)、	討議~	への参加状況(50%)に	より評	価する。			
教科	書・	適宜指示します。							
参考書	学文献等								
院生によるプレゼンテーションと討議形式で行う。 授業形式									
	'ィス ワー								
	Eへの セージ								

		1					l		1	
授業	科目名	看護管理演習丨	担当				年次	1 年次	時間数	30
授第	美形態	演習	担当教員				前・後期	後期	単位数	1
授業目的		理に関連した国内外の文献を駅 研究計画書の作成をめざす。	構読し、	看護管理	の専門	的な知言	載を深 <i>ぬ</i>	うるとともに、E	自己の研究	課題を
到達目標	2. 各3. 各	自の研究課題に関連した国内外自の研究課題に関連した研究 自の研究課題に関連した研究 自の研究課題の研究デザインが 自の研究課題の研究デザインが	≦法につ ≦法の倫	いて説明 a理的問題	できる) 0				
回数				授業	内容	容				
	第1回 ガイダンス 看護管理領域の研究 第2回 看護管理関連論文検討(1) 第3回 看護管理関連論文検討(3) 第5回 看護管理関連論文検討(4) 第6回 看護管理関連論文検討(5) 第7回 看護管理関連論文検討(6) 第8回 看護管理関連論文検討(7) 第9回 看護管理関連論文検討(8) 第10回 看護管理関連論文検討(9) 第11回 看護管理関連論文検討(10) 第12回 課題探究と研究計画立案(1) 第13回 課題探究と研究計画立案(2) 第14回 課題探究と研究計画立案(3) 第15回 まとめ									
評価	方法	プレゼンテーション(50%)、討議	養の参加物		5 0 %)	により	評価する。		
	書· 学文献等									
院生によるプレゼンテーションと討議形式で行う。 授業形式										
	'ィス ワー									
	Eへの セージ									

授業	科目名	看護管理演習॥	担		年次	2 年次	時間数	30
授業	美形態	演習	担当教員		前· 後期	前期	単位数	1
授業目的		理論に関連した諸理論や方法語 を明確にする。	命の学習	る を深め、看護管理的課 の で の で の の に の に の に の に の に の の の の の	題探究の	D基盤を作ると	ともに、自	己の研
到達目標	2. 各 3. 各 4. 各	自の研究テーマの意義を明確に自の研究デザインを多面的に対 自の研究に関連したデータのよ 自の研究に関連したデータの患 自の研究に関連した論文のまと	食討でき 双集方法 隆理・分	。 る。 kを検討できる。 h析を行うことができる	0			
回数				授 業 内 容				
	第1回 ガイダンス 理論の適用、概念の明確化 第2回 研究デザインの多面的分析 第3回 研究計画の立案と検討(1)データの収集方法の検討 第4回 研究計画の立案と検討(2)データの収集方法の検討 第5回 研究計画の立案と検討(3)データの収集方法の検討 第6回 研究計画の立案と検討(5)分析方法の検討 第7回 研究計画の立案と検討(6)分析方法の検討 第8回 研究計画の立案と検討(6)分析方法の検討 第9回 研究計画の立案と検討(7)分析方法の検討 第10回 研究計画の立案と検討(8)分析方法の検討 第11回 研究計画書(発表・検討)(1) 第12回 研究計画書(発表・検討)(2) 第13回 研究計画書(発表・検討)(3) 第14回 研究計画書(発表・検討)(4) 第15回 まとめ							
評価	方法	プレゼンテーション(50%)、討論	義への参加状況(50%	5) によ	り評価する。		
	書・							
院生によるプレゼンテーションと討議形式で行う。 授業形式								
オフィス アワー								
	Eへの セージ							

		<u> </u>				<u> </u>		
授業	科目名	周麻酔期看護特論	担当	11.111 40.711	年次	1~2年次	時間数	30
授美	 能	講義	担当教員	北川 裕利	前· 後期	前·後	単位数	2
授業目的	周術期日	医療の動向を踏まえ、最新の原	床酔科学	学を核として、周麻酔期	用看護に	必要な最新の専	専門知識を	習得す
到達目標	2)麻	象の特性や手術を踏まえた麻酔 酔や手術による生体侵襲から走 麻酔期看護の特殊性と役割を説	己こり得	旱るリスクを捉え、モニ	タリン:	グができる。		
回数				授 業 内 容				
	回数							
評価	五方法	プレゼンテーション、討論へ	の参加	度、出席状況により評価	囲します	- 0		
	学文献等	周術期管理チームテキスト第 2016	;3版、	公益社団法人日本麻酔	幹科学会	・周術期管理ヲ	チーム委員	会編、
授業	態形式							
	7ィス ワー	オフィスアワー:9 時〜17 時 北川裕利 hirotoshi@belle.shi				各してください。		
	Eへの セージ							

						1	1	1		
授業	科目名	周麻酔期看護演習丨	担当		年次	1~2年次	時間数	30		
授第	美形態	演習	担当教員	北川裕利	前· 後期	通年	単位数	2		
授業目的	麻酔看詞	- 酔に必要な知識と技術を多くの 隻学を身につける。 文献検討により最新の知見を得								
到達目標	2)研3	dence Based Medicine(EBM) 究成果や EBM を学び、実践に 麻酔期看護の動向やトピックス	応用す	ることの意義が理解でき	きる。					
回数	授 業 内 容									
	手術麻酔、周麻酔看護に関する Evidence Based Medicine (EBM) 手術麻酔に関する症例検討 症例検討の方法とプレゼンテーション技法 臨床麻酔、周麻酔期看護に関する文献の系統的レビュー									
評価	方法	プレゼンテーション、討論へ	の参加	状況。						
	書・									
プレゼンテーション、討論を行う。 授業形式										
	オフィス オフィスアワー:9 時~17 町 北川裕利 hirotoshi@belle.sh					各してください。	,			
	セージ									

+122 ***	到日友	田広動出手港沖羽川			<i></i> > <i></i>		D土 月日 米/-	20			
欠果	科目名	周麻酔期看護演習 	担当教員	コレココ 大公子口	年次	1~2年次	時間数	30			
授業	美形態	演習	教員	北川裕利	後期	通年	単位数	1			
授業目的	周麻酔	人が安心・安全に手術、麻酔だ 期看護領域の関心のある研究記	果題の設	設定と研究方法について	検討する	3.					
到達目標		術前、術中、Surgical ICU、緩和 の実際を理解する。様々な視点									
回数	授業內容										
	術前、術中、Surgical ICU、緩和ケア、ペインクリニックの動向とトピックス 事例検討、先行研究レビューを元にしたディスカッション										
評価	方法	プレゼンテーション、討論へ	の参加	状況。							
3211	書・										
授業	形式	プレゼンテーション、討論を	:行う。								
	'ィス ワー	オフィスアワー:9 時〜17 時 北川裕利 hirotoshi@belle.sh				各してください。	,				
	<u>E</u> への セージ										

1\to \\\	1) D D	用			<i>t</i> ->/		n+ 88 */-	105			
欠果	科目名	周麻酔期看護実践丨	担当教員	サレロ が利	年次	1~2年次	時間数	135			
授第	美形態	演習	教員	北川裕利	前· 後期	通年	単位数	3			
授業目的	る。ま7 酔科指 ² 臨床/	場研修を修了した看護師が周月 た、合併症のない全身麻酔事の 尊医の指導のもとでの実践し, 麻酔を踏まえた周麻酔期看護の 究課題や評価方法を探索しなた	川におい 周麻酔 と医学的	て、麻酔管理の流れと 中期看護を科学的で安全 内思考過程を参考にした	看護ケブ に実施す	で関する知識 する能力を培う。	・技術を学 。	び、麻			
到達目標	6) 臨床実践における課題や実践の評価について考察し、言える。										
回数				授 業 内 容							
評価	方法	実習記録、実習の観察評価、 し、総合的に評価します。	実習へ	の取り組みを重視し、そ	その他((提出物、出席)	犬況など)	を加味			
	学文献等	周術期管理チームテキスト第 2016	3 版、	公益社団法人日本麻酔	科学会	・周術期管理チ	- 一ム委員	会編、			
授業	授業形式										
	'ィス ワー	オフィスアワー:9 時〜17 時 北川裕利 hirotoshi@belle.sh				各してください。					
	Eへの セージ										

授業科目名授業形態		周麻酔期看護実践‖	担当教員		年次		時間数	45		
		実習		北川 裕利	前・ 後期	1~2年次 通年	単位数	1		
授業目的	さらに多様な臨床場面において実践者に必要なスキルを統合させた Advanced 実習とする。術前外来(術前評価)、術中管理、緩和ケア、ペインクリニック、Surgical ICU、外科等を周術期の流れとして理解し、シームレスな看護実践ができるよう必要な知識を習得し、実践できる。さらに、外科術後管理に関連のある特定行為を修得し、活用する。また、周麻酔期看護の専門性の確立に向けて、後進の指導により、周麻酔期看護の実践者教育(指導方法)について考察する。									
到達目標	1) 領域の異なる対象に適した手順書に改良しながら、安全に特定行為が実施できる。 2) 各ユニットで異なる麻酔管理法、患者管理の違いが理解できる。 3) 麻酔領域と外科領域の特定行為を複合した看護実践の活用方法を見出すことができる。 4) 助言を受けながら、組織横断的活動をするために必要なマネジメントや仕組みを活用できる。 5) 周麻酔期看護の専門性を捉え、後進の育成に必要な教育、指導方法について考察できる。									
回数				授業内容						
	各領域における麻酔管理、患者管理術中麻酔管理領域、さらに麻酔外科術後管理の特定行為を含めた看護ケアの実践、看護継続性									
評価	方法	実習記録、実習の観察評価、 し、総合的に評価します。	実習へ	の取り組みを重視し、そ	その他((提出物、出席)	犬況など)	を加味		
	書· 主献等	周術期管理チームテキスト第 2016	3 版、	公益社団法人日本麻酔	科学会	・周術期管理チ	ム委員	会編、		
附属病院内 授業形式										
オフィスアワー		オフィスアワー:9 時〜17 時 北川裕利 hirotoshi@belle.shi				各してください。				
学生への メッセージ		の研修を修了した者で、これと同等であるとみかされること								

授業科目名授業形態		周麻酔期看護実践Ⅲ	担当教員		年次		時間数	45		
		実習		北川裕利	前・ 後期	1~2年次 通年	単位数	1		
授業目的	さらに多様な臨床場面において実践者に必要なスキルを統合させた Advanced 実習とする。術前外来(術前評価)、術中管理、緩和ケア、ペインクリニック、Surgical ICU、外科等を周術期の流れとして理解し、シームレスな看護実践ができるよう必要な知識を習得し、実践できる。さらに、外科術後管理に関連のある特定行為を修得し、活用する。また、周麻酔期看護の専門性の確立に向けて、後進の指導により、周麻酔期看護の実践者教育(指導方法)について考察する。									
到達目標	1) 領域の異なる対象に適した手順書に改良しながら、安全に特定行為が実施できる。 2) 各ユニットで異なる麻酔管理法、患者管理の違いが理解できる。 3) 麻酔領域と外科領域の特定行為を複合した看護実践の活用方法を見出すことができる。 4) 助言を受けながら、組織横断的活動をするために必要なマネジメントや仕組みを活用できる。 5) 周麻酔期看護の専門性を捉え、後進の育成に必要な教育、指導方法について考察できる。									
回数	授業内容									
	各領域における麻酔管理、患者管理術中麻酔管理領域、さらに麻酔外科術後管理の特定行為を含めた看護ケアの実践、看護継続性									
評価	方法	実習記録、実習の観察評価、 し、総合的に評価します。	実習へ	の取り組みを重視し、そ	その他((提出物、出席)	犬況など)	を加味		
	書・	周術期管理チームテキスト第 2016	3 版、	公益社団法人日本麻酔	科学会	・周術期管理チ	ム委員	会編、		
附属病院内 授業形式										
オフィスアワー		オフィスアワー:9 時〜17 時 北川裕利 hirotoshi@belle.shi				各してください。				
学生への メッセージ		の研修を修了した者で、これと同等であるとみかされること								

授業	科目名	看護学特別研究	担当		年次	1年次後期	時間数	450		
授業	美形態	特別研究	担当教員	指導教員	前・後期	2年次通年	単位数	10		
授業目的 到達目標	5)研究成果を説明できる 6)計画的・主体的に研究に取り組むことができる 臨床家としての高度専門実践能力、あるいは研究者として求められる研究指導能力や、知識の提供に求めら									
標	ונטלואמו	1073 - 2 11790 C EI 7 (1917 0 X E 1313	071 CD	2 7 0						
回数				授 業 内 容						
	 研究課題の設定 文献検討 研究方法論の検討 研究計画書作成 研究実施(調査・実験等) 結果の検討 論文作成 									
評価	方法	研究計画書 50%、研究成果 5	50%							
教科書・ 都度提示する 参考書文献等										
授業形式		個個人やグループのゼミ形式によるディスカッション等								
オフィスアワー		メールで事前に連絡するほう	が確実							
学生への メッセージ		積極的に参加してください。								

授業	科目名	看護実践課題研究 (看護管理実践)	担当教員	指導教員	年次前・	1~2年次	時間数	180		
授美	業形態	課題研究	教員	THY TO	後期	1、24次	単位数	4		
授業目的	研究を進めるにあたり以下のことを学修する。 1) 問題関心について既存研究の特徴、課題や限界を明確化しながら整理する 2) リサーチクエスチョンを明確化する 3) 適切な研究方法を選択し適用できる 4) 研究の限界と課題を明確化できる 5) 研究成果を説明できる 6) 計画的・主体的に研究に取り組むことができる									
到達目標	看護管理をテーマとした臨床家としての高度専門実践能力、あるいは研究者として求められる研究指導能力や、知識の提供に求められる能力の開発と、修了課題である修士論文の作成の過程として、倫理的規範の学習や研究方法の理解と文献検討能力の育成を図り、研究遂行能力を養う。									
回数				授 業 内 容						
	 2) 文献検討 3) 研究方法論の検討 4) 研究計画書作成 5) 研究実施(調査・実験等) 6) 結果の検討 7) 論文作成 									
評価	五方法	研究計画書 50%、研究成果 5	50%							
教科	書・	都度提示する								
参考書	書文献等									
授業	個人やグループのゼミ形式によるディスカッション等 授業形式									
	7ィス ワー	メールで事前に連絡するほうが確実								
	Eへの セージ	積極的に参加してください。								

授業科目名		看護実践課題研究 (特定行為実践)	担当教員	指導教員	年次		時間数	180		
		課題研究			前· 後期	1~2年次	単位数	4		
授業目的	研究を進めるにあたり以下のことを学修する。 1)問題関心について既存研究の特徴、課題や限界を明確化しながら整理する 2)リサーチクエスチョンを明確化する 3)適切な研究方法を選択し適用できる 4)研究の限界と課題を明確化できる 5)研究成果を説明できる 6)計画的・主体的に研究に取り組むことができる									
到達目標	より高い実践技術に基づく看護実践への貢献を目指すテーマに関して臨床家としての高度専門実践能力、あるいは研究者として求められる研究指導能力や、知識の提供に求められる能力の開発と、修了課題である修士論文の作成の過程として、倫理的規範の学習や研究方法の理解と文献検討能力の育成を図り、研究遂行能力を養う。									
回数				授 業 内 容						
	 2)文献検討 3)研究方法論の検討 4)研究計画書作成 5)研究実施(調査・実験等) 6)結果の検討 7)論文作成 									
評価	5方法	研究計画書 50%、研究成果 5	50%							
	書・	都度提示する								
授業形式		個人やグループのゼミ形式によるディスカッション等								
オフィスアワー		メールで事前に連絡するほうが確実								
学生へのメッセージ		積極的に参加してください。								

学位論文(修士)提出の手引

修士の学位(以下「学位」という。)の授与を受けるためには、滋賀医科大学学位 規程等の他に詳細な手続上の取り決めがあるので、あらかじめこの手引を熟読し手続 に遺漏のないように留意すること。

1 学位論文(以下「修士論文」という。)審査出願手続の前に

(1)修士論文審査出願者の資格

修士論文審査を願い出ることができる者は、本学大学院医学系研究科修士課程の 最終学年に在学し、所定の単位を修得した者又は修士論文を提出する日の属する学 年末までに所定の単位を修得する見込みの者でかつ必要な研究指導を受けた者とす る。

(2)修士論文

- ① 修士論文は、原則として単著とし1編に限る。ただし、参考として他の論文を 添付することができる。
- ② 修士論文が共著の場合は、次の各項の要件を満たす場合に限り提出できる。
 - ア 修士論文提出者は、筆頭著者であること。
 - イ 修士論文提出者は、他の共著者から当該論文を修士論文として使用しても差 し支えない旨の承諾を得ていること。
 - ウ 修士論文提出者は、他の共著者が当該論文を修士論文として使用しない旨の 承諾を得ていること。
 - エ 修士論文提出者は、その研究において自ら担当した部分を明記した報告書を 作成すること。

2 修士論文審査出願手続等

- (1)修士論文審査出願手続
 - ① 修士論文審査の出願期間(年2回)

2021年7月1日(木) 午後5時まで(予定)

2022年1月下旬 午後5時まで(予定)

② 修士論文等の提出先

修士論文等は、指導教員の承認(別紙様式1)を得た上で学生課大学院教育支援係(2095)に提出すること。

③ 提出書類

7	修士論文番査願(別紙様式1)	1 部
1	履歴書(別紙様式5)	1 部
ウ	学業成績証明書	1 部
工	修士論文が共著論文である場合は承諾書(別紙様式4)	1部
オ	修士論文の利益相反申告書(別紙様式7)	1 部
力	論文目録(別紙様式2)	6 部
キ	論文内容要旨 (別紙様式3)	6 部
ク	修士論文が共著論文である場合は自己の担当部分についての報告書	6部
ケ	修士論文(表紙をつける)	5部
コ	参考論文がある場合は当該論文 (表紙をつける)	5部

④ 提出時の注意

提出書類は、A4サイズの紙の2穴ファイルを用いて、5分冊(正本1冊、副本4冊: <u>カ・キ・ク・ケ・コの順に綴じる</u>)にして提出すること。なお、1部の提出書類および、上記以外にカ・キ・ク各1部をクリップ等でまとめて提出すること。

また、提出書類の記載事項に誤記等があれば、訂正を指示することがあるので必ず出願者本人が持参すること。

(2)修士論文審査及び研究発表会

修士論文は、大学院委員会に設けられた審査委員会で審査されるが、審査の過程 において研究発表会を開催するので準備しておくこと。

(3) 最終試験の方法

最終試験は、審査委員会で修士論文を中心として、その関連分野について口頭試問又は筆答試問の形で実施される。

(4) 学位記の授与

審査委員会による修士論文の審査結果及び最終試験の結果は、大学院委員会に報告され、大学院委員会の議に基づき、学長から学位授与の可否及び授与日について本人並びに指導教員に通知される。

3 修士論文及び参考論文の提出様式

修士論文及び参考論文は以下の様式により提出すること。

(1)修士論文

① 表紙(本文が印刷製本されている場合も必要)

ア 題目は、論文の内容を具体的かつ簡潔に示すものとし、論文が日本語の場合は日本語で、外国語の場合は、外国語で記載すること。

なお、外国語の場合は、題目の下に()書で和訳を付記すること。

- イ 略語は、題目の中ではごく一般化されたもの以外は原則として使用しないこと。
- ウ 副題を付けることは差し支えないができるだけ簡潔なものにすること。
- エ 著者名は、称号を付けず姓名を略さずに記載すること。 (戸籍抄本と一致させること。)
- オー各ファイルの表にも同様の表紙を貼付すること。

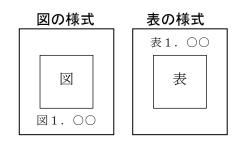
- a 修士論文又は参考論文の別(参考論文が2編 以上ある場合は、論文目録の記載順に番号を付 けること。)
- b 題目
- c 専攻領域
- d 指導教員
- e 学位申請者名

② 本文(印刷されていない場合)

- ア 使用する用紙は、修士論文が日本語の場合はA4判縦(約21 cm×30 cm)、 外国語の場合は国際判(約22 cm×28 cm)又はA4判縦(約21 cm×30 cm)と すること。
- イ 各用紙に頁数を付し、目次をつけること。
- ウ 1 頁は 4 0 文字×3 0 行 (1200 字) 程度とし、上下左右のマージンは 30mm とすること。
- エ 提出する修士論文5部のうち1部は原本、他は副本とし副本は原本のコピーでもよい。
- オ 修士論文は、左端中央を一箇所、ホッチキスで止めて、2穴ファイルに綴ること。

(のり付け製本用透明表紙不要。)

- カ 副本の写真は、原本同様にオリジナル・プリントを使用すること。
- キ 図表がある場合は図表の目次を別に作り、 図・表とともに本文の最後にまとめて付ける こと。なお、図・表とも1頁に1つ中央に配 置し、タイトル(図は下、表は上)を付ける こと。



ク 修士論文は、受理後ただちに審査に入るので提出後に訂正等のないように吟味・推敲の上、完成したものを提出すること。

ケ 受理した修士論文は返却しないので、申請の際に写しを取っておくことが望ましい。

(2) 参考論文

参考論文として、修士論文を補足する論文あるいは関連分野の論文を提出することができる。

なお、参考論文作成については、修士論文に準ずること。

4 その他の提出書類記入上の留意事項

- (1) 論文目録(別紙様式2 … 別紙記載例参照)
 - ① 論文題目が外国語の場合には、()で和訳を付記すること。
 - ② 修士論文及び参考論文の公表が予定されている場合は、その旨を記載すること。
 - ③ 参考論文は、参考として添付する他の論文を列記すること。
- (2) 論文内容要旨(別紙様式3)
 - ① 要旨は、研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に区分して要約すること。
 - ② 要旨は、1200字程度(1100~1300字)とすること。
 - ③ 論文題目が外国語の場合には、()で和訳を付記すること。
- (3) 承諾書(別紙様式4)

修士論文が共著による場合は、必ず共著者全員の承諾書を添付すること。

- (4)履歴書(別紙様式5…別紙記載例参照)
 - ① 氏名は、戸籍抄本どおり記載し、通称・雅号等一切用いないこと。 なお、最下行の氏名は、必ず自署すること。
 - ② 学歴は、大学入学以後の学歴を年代順に記載すること。

修士論文審査における研究発表会に関する申し合わせ

平成11年 3月10日 大学院委員会決定

滋賀医科大学学位論文(修士)審査実施要項第3第4項の規定に基づき次のとおり 定めるものとする。

(名 称)

1 大学院修士課程研究発表会と称する。

(発表者)

2 発表者は、修士論文審査出願者とする。

(発表時期)

3 修士論文審査の過程において開催することとし、発表者及び論文題目並びに開催 日時、場所等については、掲示及び通知により周知する。

(発表方法)

- 4 (1) 発表会は、公開とする。
 - (2) 発表は、パワーポイント、スライド等を用いて各自 20 分程度で行い、その 後質疑応答時間を設けることとする。

(発表内容)

5 修士論文に関する研究内容とする。

(司 会)

- 6 研究発表会の司会は、それぞれの修士論文審査委員主査が行うものとする。 (研究発表会の事務)
- 7 研究発表会に関する事務は、学生課において取り扱うものとする。

学位論文(修士)審査の判定基準

平成15年8月5日 大学院委員会看護学小委員会了承 平成19年3月7日一部改正 看護学系大学院委員会了承 平成25年8月1日一部改正 看護学系大学院委員会了承

学位論文(修士)の審査にあたっては、次のとおりのチェック・ポイントで判定することとする。

- 1. 独創性
- 2. 研究の背景・目的・意義は明確か
- 3. 研究方法は最適か
- 4. 倫理的配慮が十分なされているか
- 5. 結果の解析や考察は適切か
- 6. 今後の研究の発展性、看護学の発展に貢献性はあるか
- 7. 論文発表の方法、質疑応答の適切さ